

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第534集

MUSHIRODA AOKI

席田青木遺跡 3

—第3次調査の報告—

1997

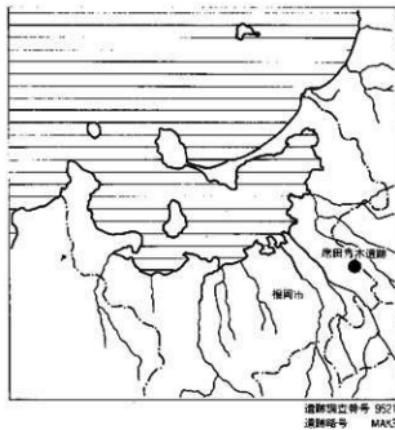
福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第534集

MUSHIRODA AOKI

席田青木遺跡 3

—第3次調査の報告—



1997

福岡市教育委員会

序

福岡市の東を画する月隈丘陵は、弥生時代から古墳時代を中心として、各時代の遺跡が多く分布しています。近年は、地下鉄空港線の開通以来、新たな住宅開発が進んでいますが、この地域は昔から人々の居住に適した土地であったようです。

このたび、共同住宅の開発に先立って、席田青木遺跡の3度目の発掘調査を行いました。その結果、從来想定されていた遺跡の範囲よりも西に広がって、丘陵の斜面から麓に弥生時代から中世までの集落が存在することが分かりました。特に、古墳時代の初め頃の環濠や、古墳時代後期の方形の環溝遺構は注目される所であります。

本書は、これらの調査の成果を収録したものであります。本書が、埋蔵文化財調査に対する市民の方々の御理解、さらには学術研究に寄与することができれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、発掘調査から整理、報告に至るまで、盛立建設株式会社中嶋凡夫氏はじめ、多くの方々の御理解と協力を賜りましたことに対し、心より感謝の意を表する次第であります。

平成9年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 町 田 英 俊

例　　言

- 本書は、福岡市教育委員会が、平成7(1995)年8月1日から同年9月14日まで発掘調査を実施した、共同住宅建設に伴う席田青木遺跡の緊急発掘調査(第3次調査)の報告書である。
- 席田青木遺跡は、1981年発行の『福岡市考古図(東部Ⅰ)』で「青木遺跡群」とする遺跡であるが、福岡市内には青木遺跡という名前が二ヶ所存在するので、西区今宿青木遺跡については青木遺跡(AOK)とし、博多区(旧席田村)の本遺跡は席田青木遺跡(MAK)としている。
- 遺構の呼称は記号化し、柱列をS.A.、挿立柱建物をS.B.、堅穴住居をS.C.、溝状造構をS.D.、井戸をS.E.、土坑をS.K.、性格不明遺構をS.X.とした。
- 本書に用いる方位は磁北である。またレベルは道路台帳地図の標高を移動したものである。
- 属差区の座標は任意のものである。
- 本書に用いる遺構図は、長家伸・久住登雄・下川就也・漱戸啓治・白口薫治・北村幸子・久保山勝広・永井大志・芝藤裕志・井上祐一郎・橋本泰俊・喜田敏が作成した。遺物の実測は、土器については北村・西山めぐみが行い、石器は田上勇一郎が、鉄器は久住が行った。製図は、成浦直子・北村があたり、石器・鐵器は田上が行った。
- 現場写真は、長家・久住が撮影し、遺物写真は久住が撮影した。
- 本書の総集・執筆は久住が行った。
- 本書に記載する遺物・記録類(図面・写真)は福岡市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・管理される予定である。広く活用されたい。

遺跡調査番号	9521	遺跡略号	MAK-3	分布地図番号	022-A-2
調査地地籍	福岡市博多区青木1丁目290番ほか			事前審査番号	7-2-33
開発面積	2,042m ²	調査面積	1,170m ²	調査期間	1995年8月1日～9月14日

本文目次

Iはじめに	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査の組織	1
II 遺跡の立地と歴史的環境	1
1 遺跡の立地と既往の調査	1
2 周辺の歴史的環境	2
III 調査の記録	4
1 調査の経過と概要	4
2 井戸址 (SE)	6
3 土坑 (SK)	8
・表1 土坑一覧表	7
4 壺穴住居址 (SC)	9
5 溝状遺構 (SD)	10
6 掘立柱建物 (SB)	14
7 不明遺構 (SX)	14
・表2 掘立柱建物一覧表	17
8 出土遺物	17
(1)土器	17
(2)石器	25
(3)鉄器	25
・表3 土器観察表	17・19・20
・表4 石器観察表	20
IV まとめ	25

挿図目次

Fig. 1 席田吉木遺跡周辺遺跡分布図 (1/50,000)	2
Fig. 2 調査地点位置図 (1/5,000)	3
Fig. 3 調査区概略図 (1/500)	4
Fig. 4 調査区基本土層図 (1/30)	4
Fig. 5 井戸址 (SE) 実測図 (1/60)	5
Fig. 6 土坑 (SK) 実測図 I (1/60)	6
Fig. 7 土坑 (SK) 実測図 II (1/60)	7
Fig. 8 SC01実測図 (1/60)	8
Fig. 9 SD20実測図 (1/60)	9
Fig.10(+) SD34・35・36・37・38・39・40ほか 平面図 (1/100)	10
Fig.10(+) 同上断面図・上層図 (1/80、1/100)	10
Fig.11 SD01・02・03実測図 (1/160)	11
Fig.12 SD04～13・16～19・21～24・26・27・ 29、SX01、SK09、SC02実測図 (1/125)	12
Fig.13 掘立柱建物実測図 I (1/80)	15
Fig.14 掘立柱建物実測図 II (1/80)	16
Fig.15 掘立柱建物実測図 III (1/80)	18
Fig.16 掘立柱建物実測図 IV (1/80)	19
Fig.17 土器実測図 I (1/4)	21
Fig.18 土器実測図 II (1/4)	22
Fig.19 土器実測図 III (1/4)	23
Fig.20 石器(1/1,2/3,1/3)・鉄器(1/2) 実測図	24
Fig.21 遺構変遷図 (1/600)	25
Fig.22 席田吉木遺跡3次調査全体図 (1/100)	付図

図版目次

PL. 1

1. 調査区東半 (SD01・02・SB05) 近景
(西から)

PL. 2

2. 調査区東半全景 (西から)

3. 調査区西半全景 (東から)

PL. 3

4. SX16・17、SD01 XI~XIV区、SD
02-X・XI区 (東から)

5. SD01・02-I区北側上層 (南から)

6. SD02-XI区西端土器出土状況 (東から)

7. SD20全景 (北から)

8. SD20コーナー部土器出土状況 (北から)

PL. 4

9. SD34・35・36・38、SB12・13・14・32
(南から)

10. SD36-II・III区 (手前がII区)

土器出土状況 (西から)

11. SD36-III区土器出土状況 (北から)

12. SK01完掘状況 (北から)

※手前はSP287 (SB09)

PL. 5

13. SC01全景 (北から)

14. SK32(左)・SK31(右) 完掘状況

(北から)

15. SE01土層状況 (西から)

16. SE05完掘状況 (東から)

17. SE04上層状況 (南から)

18. SE02土層状況 (北から)

PL. 6

19. SB05全景 (西から)

20. SB02全景 (南から)

21. SB04全景 (東から)

22. SB01全景 (西から)

23. SB03全景 (西から)

24. SB06全景 (西から)

25. SP300 (SB06) 石錘出土状況
(東から)

PL. 7

26. SB09全景 (西から)

27. SB17、SB36? (南から)

28. SB07全景 (北西から)

29. SB10全景 (南から)

30. SB18(南から)

31. SB16全景 (南から)

32. SB19(南西から)

33. SB11全景 (南から) ※中央はSE05

PL. 8 遺物写真

- 1・2. SD01出土須恵器

- 3・4・5・9・10・11. SD36出土古式土師器

6. SD35出土古式土師器

7. SD38出土古式土師器

8. SD34出土古式土師器

- 12・13・14. SD20出土古式土師器

15. SP-300出土石錘

16. SD03出土古式土師器

- 17・18・19. SE05出土古式土師器

20. SD02出土古式土師器

I はじめに

1. 調査に至る経緯

1995(平成7)年4月12日、盛立建設株式会社代表取締役中嶋凡夫氏から、博多区青木1丁目290番ほかの開発計画事前審査願が福岡市に提出された。申請地は席田青木遺跡の隣接地であるが、平成5年の第2次調査によって丘陵の東側斜面から麓にも弥生時代から中世の集落遺構を主とする遺跡が広がることが判明していたので、西側斜面になるこの部分にも遺跡の存在が予想された。埋蔵文化財課では関係者と協議の上、1995年6月の19・22日に試掘を行った。その結果、申請地は開墾により一定の削平を受けているものの、弥生～古墳時代及び中世の遺物と遺構が試掘トレンチに検出されたため、遺跡の取り扱いについて関係者と協議を行い、マンション建設による遺跡の削平の前に、記録保存のための発掘調査を実施することになった。そして、盛立建設株式会社の受託調査として、1995年8月1日より調査を開始した。調査は、同年9月14日に終了した。

なお、整理作業は1996(平成9)年度に行い、報告書を作成した。

2. 調査の組織（当時）

調査委託：盛立建設株式会社 代表取締役 中嶋凡夫

調査主体：福岡市教育委員会

調査総括：埋蔵文化財課長 荒巻輝勝

埋蔵文化財課第二係長 山口譲治

調査庶務：埋蔵文化財課第一係 西田結香

調査担当：埋蔵文化財課第二係 長家伸、久住猛雄

試掘調査：埋蔵文化財課第二係 山崎龍雄、池田祐司

調査補助：瀬戸啓司

調査作業：小川博、鹿毛賢次郎、小路九嘉人、小路丸良江、村本義夫、森教子、西畠繁行、脇坂信重、脇坂チカ、田中栄、原ハナエ、結城千代子、井上トミ子、森山早苗、平田政子、網田美代野、川口シゲノ、山下アヤコ、西島マツコ、平田千鶴子、松木ミツ子、清末シズエ、俣野志津代、江崎光子、高野瑛子、黒瀬千鶴、志堂寺堂、立水清、谷英二、徳永栄彦、永松トミ子、永松伊都子、廣田安平、松井一美、村山市次、山下智子、山本代代、吉住クニ子、桑原隆浩、角本光紀、本村辰之祐、千原浩敬、北村幸子、橋本幸樹、喜田敏、井上祐一郎、井上隆明、今塙屋毅行、清水耕平、江川博文、大庭健太郎、久保山勝広、芝藤裕志、永井大志、平川朋和、崎村春子、川原愛、土倉崇子

整理作業：成清直子、北村幸子、西山めぐみ、尾崎君枝

以上その他、発掘調査においては山口譲治、松村道博、下村智、宮井善郎、白井克也（福岡市教育委員会埋蔵文化財課）、下川航也の御助力、御教示を賜った。整理作業には山上勇一郎（埋蔵文化財課）の協力を得た。また炎天下の猛暑の中、発掘作業に携わって頂いた多くの作業員の方々や学生諸君にはあらためて感謝の意を表したい。

II 遺跡の立地と歴史的環境

1 遺跡の立地と既往の調査

席田青木遺跡は福岡平野の東を画する月隈丘陵の北端近くに位置する。席田青木遺跡は、これまでに



Fig. 1 席田青木遺跡周辺遺跡分布図 (1/50,000)

A 郡河八幡古墳	B 東光寺剣塚古墳	C 菩提北古墳	D 滝澤東遺跡	E 下月限天神森遺跡	F 仁多1号墳	G 仁多2号墳	H 仁多ノ瀬1号墳	I 仁多ノ瀬2号墳	J 仁多ノ瀬3号墳	K 仁多ノ瀬4号墳	L 仁多ノ瀬5号墳	M 仁多ノ瀬6号墳	N 仁多ノ瀬7号墳	O 仁多ノ瀬8号墳	P 仁多ノ瀬9号墳	Q 仁多ノ瀬10号墳	R 仁多ノ瀬11号墳	S 仁多ノ瀬12号墳	T 仁多ノ瀬13号墳	U 仁多ノ瀬14号墳	V 仁多ノ瀬15号墳	W 仁多ノ瀬16号墳	X 仁多ノ瀬17号墳	Y 仁多ノ瀬18号墳	Z 仁多ノ瀬19号墳	AA 仁多ノ瀬20号墳	AB 仁多ノ瀬21号墳	AC 仁多ノ瀬22号墳	AD 仁多ノ瀬23号墳	AE 仁多ノ瀬24号墳	AF 仁多ノ瀬25号墳	AG 仁多ノ瀬26号墳	AH 仁多ノ瀬27号墳
1 席田青木遺跡（黒塗部は第3次調査地点）	2 上白井遺跡	3 中山遺跡	4 下白井遺跡	5 久保園遺跡	6 寒川遺跡	7 大谷遺跡	8 宝満尾遺跡	9 宝満尾遺跡	10 下月限天神森遺跡	11 下月限宮ノ後遺跡	12 御厨遺跡（第4・5次調査）	13 並田遺跡（第2・3次調査）	14 福岡遺跡群	15 古家本町遺跡	16 堅粕遺跡群	17 吉坂遺跡群	18 恵多遺跡群	19 比恵・那珂遺跡群	20 那珂君跡・深ツヤ遺跡	21 東那珂遺跡	22 楢角遺跡	23 箕与丁池遺跡	24 ニッケ古墳	25 岩崎神社境内古墳群	26 燐杵山古墳群	27 古大間地三ヶ遺跡							
1 席田青木遺跡（黒塗部は第3次調査地点）	2 上白井遺跡	3 中山遺跡	4 下白井遺跡	5 久保園遺跡	6 寒川遺跡	7 大谷遺跡	8 宝満尾遺跡	9 宝満尾遺跡	10 下月限天神森遺跡	11 下月限宮ノ後遺跡	12 御厨遺跡（第4・5次調査）	13 並田遺跡（第2・3次調査）	14 福岡遺跡群	15 古家本町遺跡	16 堅粕遺跡群	17 吉坂遺跡群	18 恵多遺跡群	19 比恵・那珂遺跡群	20 那珂君跡・深ツヤ遺跡	21 東那珂遺跡	22 楢角遺跡	23 箕与丁池遺跡	24 ニッケ古墳	25 岩崎神社境内古墳群	26 燐杵山古墳群	27 古大間地三ヶ遺跡							
1 席田青木遺跡（黒塗部は第3次調査地点）	2 上白井遺跡	3 中山遺跡	4 下白井遺跡	5 久保園遺跡	6 寒川遺跡	7 大谷遺跡	8 宝満尾遺跡	9 宝満尾遺跡	10 下月限天神森遺跡	11 下月限宮ノ後遺跡	12 御厨遺跡（第4・5次調査）	13 並田遺跡（第2・3次調査）	14 福岡遺跡群	15 古家本町遺跡	16 堅粕遺跡群	17 吉坂遺跡群	18 恵多遺跡群	19 比恵・那珂遺跡群	20 那珂君跡・深ツヤ遺跡	21 東那珂遺跡	22 楢角遺跡	23 箕与丁池遺跡	24 ニッケ古墳	25 岩崎神社境内古墳群	26 燐杵山古墳群	27 古大間地三ヶ遺跡							

2回の調査が行われている(Fig. 2)。遺跡の北側の第1次地点では、弥生時代中期の裏柏墓群、7世紀中葉の単独古墳(席田青木第1号墳)、中世の城と溝、近世墓地が調査されている(福岡市埋蔵文化財調査報告書第356集)。第2次地点は遺跡の南西斜面にあたり、弥生中期の裏柏墓群、弥生後期・古墳時代後期の集落、中世の集落と墓地の一部が調査されている(第408集)。第1次・2次の調査地点は、現在は造成で切り離されているが、本来は一連の丘陵尾根線にあたる。裏柏墓群も連続するものであろう。第2次地点では、集落遺構はそれほど多くは検出されていないので、集落の縁辺と思われるが、地形と今回調査の成果から、第2次地点の西にある現在の地禄神社付近から第3次地点にかけての緩斜面が集落遺跡の中心的な広がりになるとを考えられる。また、志免町側の中山遺跡は同一遺跡であろう。

四王寺山から派生する月限丘陵は、開析を多く受けた地形を呈し、幾重にも延びた舌状丘陵や独立丘陵が広がっている。席田青木遺跡の立地する丘陵もその一つである。第1・2次調査地点の遺跡は、西侧に開けた丘陵尾根上に広がり、標高20~41mを測る。一方、今回調査の地点は、西侧の現在の福岡空港のある沖積平野に下りる緩斜面にあり、標高は9~11m前後を測る。なお、遺跡の周囲を含めた月限丘陵には、近世の築成と推測できる比較的大きな灌漑用溜池が多く存在する。

2 周辺の歴史的環境

月限丘陵に分布する遺跡には重要なものが多い(Fig. 1)。弥生時代では、席田青木遺跡の南1kmに、人谷遺跡・久保園遺跡・赤穂之浦遺跡・宝満尾遺跡が広がる。人谷遺跡では、弥生後期の堅穴住居から

鉄斧と青銅製鋤先が、別地点からは後漢鏡片が、久保岡遺跡では赤牛中期末の超大型掘立柱建物を含む集落が、赤龍之神遺跡では鹿の文様を持つ横帶文劍镡の鋒型が、宝満尾遺跡では4号土壙墓より前漢末の連弧文明光鏡がそれぞれ出土し、この付近が中期後半から後期前半の月隈丘陵における中心的な遺跡群であること示す。さらにこれららの南1kmには、上月隈遺跡などの堀柵墓地が分布し、下月隈大神森遺跡では板付I・II式の堀柵墓群がある。南2kmには国指定の金環遺跡が所在し、450基以上の堀柵・土壙墓・石棺よ

りなる弥生時代の墓地が調査され、堀柵から出土した人骨群は貴重な資料であり、副葬されたゴホウラ製貝輪は南西諸島との繋がりを示す重要な発見になった。古墳時代では現在の東平尾公園の周辺に、麻田北の浦1号墳など後期古墳が多く点在する。ただし古墳前期から中期の状況は月隈丘陵では不明確である。

一方周囲に目を転じると、月隈丘陵の西側の福岡空港の周辺は、本来中小の河川が走る沖積平野である。幾度もの洪水と空港の造成によって、現在は全く不明になっているいわゆる禿れ低高地に、遺跡が存在する。その代表で質・量ともに充実しているのが雀巣遺跡である。麻田青木遺跡の1.5km南西にある。縄文時代晩期末（弥生早期）の夜臼式期の溝から出土した木器は、農耕文化の定着を示し、大量の土器群と組合式机や弧帶文のある木製短甲などの多種多様な木器を出土した弥生後期後葉の環濠は、内部に大型掘立柱建物があり、過渡的な集落と言える。周囲には弥生時代の全期間から古墳前期中頃までの遺構が分布する。さらに御笠川の対岸にある比恵・那珂遺跡群はこれをはるかに越える巨大遺跡である。弥生中期中頃から古墳時代前期中頃までは、「奴國」の中心の大拠点であり、遺跡面積は150ha近くになる全国でも最大級の上記の時期の集落遺跡である。比恵遺跡では「那津屯倉」の可能性高い6世紀後半～7世紀初頭の特殊な大型建物群と三重柵列がある。

次に、月隈丘陵から北東の志免町側に目を向けると、北東1kmの亀川古墳が注目される。大型箱式石棺を主体とし、大量の朱を副葬した在地的な初期古墳または弥生終末の墳丘墓であり、方形墳とする説

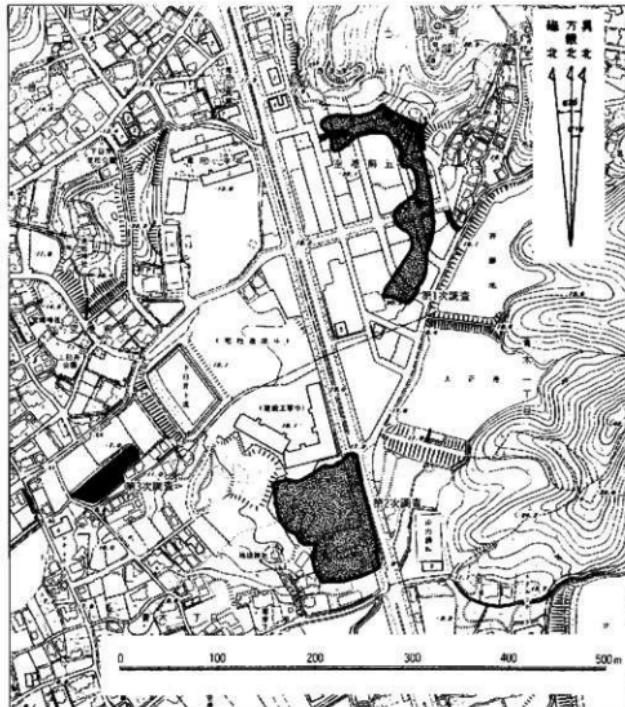


Fig. 2 調査地点位置図 (1/5,000)

もある。席田青木遺跡の第3次調査の弥生終末から古墳前期の遺構群は、案外この龜山古墳と関係が深いかもしれない。すなわち席田青木遺跡は弥生後期～古墳前期の月隈丘陵の中心集落の可能性がある。

III 調査の記録

1 調査の経過と概要

調査地付近は丘陵の西の緩斜面にあり、南から北に低くなる東西に長い上地である。現況は、南側は住宅地、北側は川をはさんで駐車場となっている。対象地の南東側は、北に接する住宅地の擁壁となってしまっており、安全のため、ある程度引きをとって調査区を設定した。(Fig.3)。調査は、耕土処理の都合上、調査区を東西に分割し、反転して実施した。地形的に少し高く、南側にやや出ている部分(南部調査区)は、東側の調査区と同時に調査を行った。

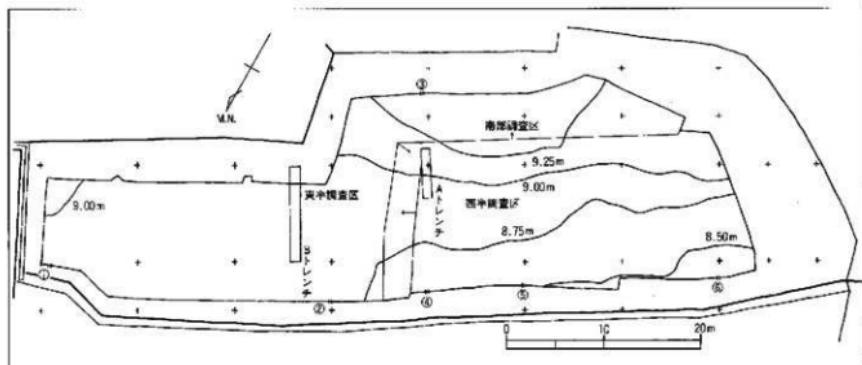


Fig. 4 調査区基本土層図 (1/30)



月1日に調査区の東側と南側の重機による表土剥ぎからまず着手した。同日に機材の搬入を行い、遺構の検出と掘削を開始した。8月14日に上記の調査区部分の全体写真を撮影した。8月23日までに、東半・南部調査区の、残りの掘削と図面作成などの作業を全て終了し、同日からこの部分の埋め戻しと、西半調査区の表土剥ぎの反転作業を行った。8月26日より、この調査区の遺構検出、掘削を開始した。9月6日に西側調査区の全体写真を撮影した。9月13日までに、残りの掘削、図面作成などの作業を全て終了し、翌9月14日に、機材の撤出と埋め戻しを行い、調査を委託した盛立建設株式会社に対象地を明け渡して調査は終了した。

調査地の表土は、表層がバラスや砂の客土であるが、その下は何枚かの水田土壤と灰土で、現地表下約40~80cmで、遺構検出面となる(Fig.4)。地形的に高い方向になる南側では浅く、北側では深い。遺構検出面は現状の地形と同様、南から北へ低い。地山は、南側の高い部分では花崗岩礫乱土であるが、他は水成の再堆積土で、明黄褐色~赤褐色土のシルト質土である。深い井戸などの遺構の観察では、この下にやはり再堆積の黄褐色粘質土があり、その下に一部では花崗岩礫乱土、他は白色の粘土層がある。遺構は、堅穴住居が全て壁周溝のみになったり、柱穴のみになるとからすると、全体として60~100cm前後削平されている。これは、調査区壁面の上層に見られるように、ある時期に周辺が水田開発で大きく地形の改変を受けていることに起因するものであろう。周辺に溜池が多く存在することも無関係ではあるまい。こうして著しい削平を受けているわりには、遺構の数は多く、以下に記述するように、古墳時代後期の環溝などのように、注目すべきものも少なくない。なお遺物は、赤生土器・古式土師器・須恵器を主とし、古代~中世の土師器・黒色土器・陶磁器數片・滑石製石鍋・石鑊・石錘・円石などの石器、鉄器2点などがあり、パンケースにして30箱弱程度の量が出土している。

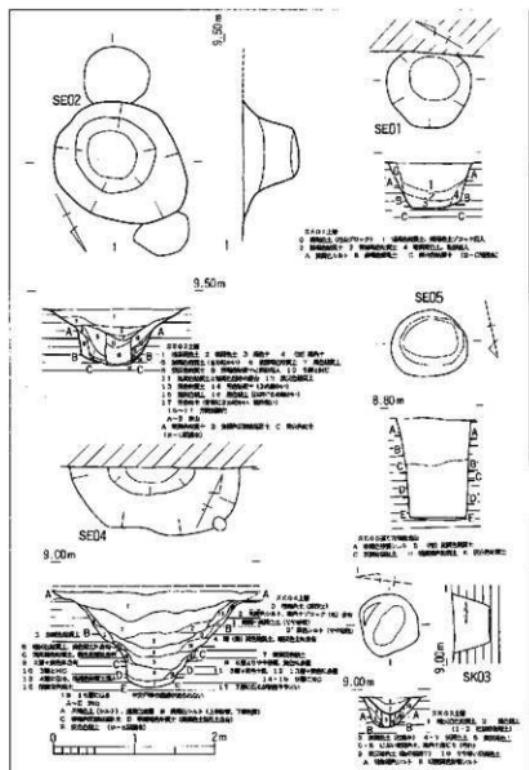


Fig.5 井戸址(S E -01・02・04・05)、土坑(S K -03) 実測図(1/60)

以下、井戸址・土坑・堅穴住居址・溝・不明遺構・掘立柱建物の順で遺構について記述し、遺物については最後にまとめて記す。なお、紙面の都合上、全ての遺構・遺物について説明できていないことを断っておきたい。また全体の遺構配置や個々の遺構の位置については、付図(Fig.22)を参照して頂きたい。

2 井戸址 (SE)

井戸は、古墳前期初頭～前半の素掘りのものを2基、古代から中世前期のものを2基検出した (Fig. 5、なおSE03は現代のもの)。その内容については、表1の土坑・井戸一覧表も参照されたい。

SE01 (Fig. 5右上、PL. 5-15)

調査区東端で検出し、一部が調査区外に出る。暗褐色～黒褐色の覆土であった。ほぼ円形のプランで、素掘りの井戸である。底面は青白色の粘土層に達し、直上の黄褐色媒乱土層との間で湧水する。検出面より深さ56cmと浅いが、これは削平のためである。遺物は少なく、弥生土器・古式土師器の小片が出た。時期比定は難しいが、一応古墳前期と考える。Fig.18-71は、出土した高杯である。SE01では上器があまり出土せず、次のSE05とは埋没過程が異なる。

SE05 (Fig. 5右中央、PL. 5-16)

西側調査区の西半中央で検出した。当初は土坑として掘り進めたが (SK22)、途中で井戸と判明した。椭円形の平面プランで、深さは130cm弱で、断面は堅穴状である。掘り方は中位で若干屈曲する。底面は平坦で、青白色の粘土層に達する。遺物は、古墳前期前葉の古式土師器が上層から下層にかけてや多く出土した。パンケース2箱型である。埋土は、地山のブロックを含む土が上層にも多くあり、

遺物の出土状況とともに、埋め戻されたようにも思われた。Fig.18-57～70は、SE05出土の古式土師器であるが、69・70の大形壺は上層から下層にかけて破片があるが、完形に復元するには破片がかなり不足している。一度別の場所で廃棄されたものが、土と一緒に埋められたためか。他の上器も、鉢等の小型器種以外は遺存率が悪い。なお59の注口状に口縁が曲がっている小形の壺は、底面に貼りついて出土した。なお掘立柱建物SB11は (Fig.14-4)、その軸線にSE05があり、柱穴の出土土器片から建物の時期が古墳前期と見られることから、あるいは両者は共存し、SB11は上屋的な施設であった可能性もある。

SE02 (Fig. 5左上、PL. 5-18)

南側調査区中央で検出し

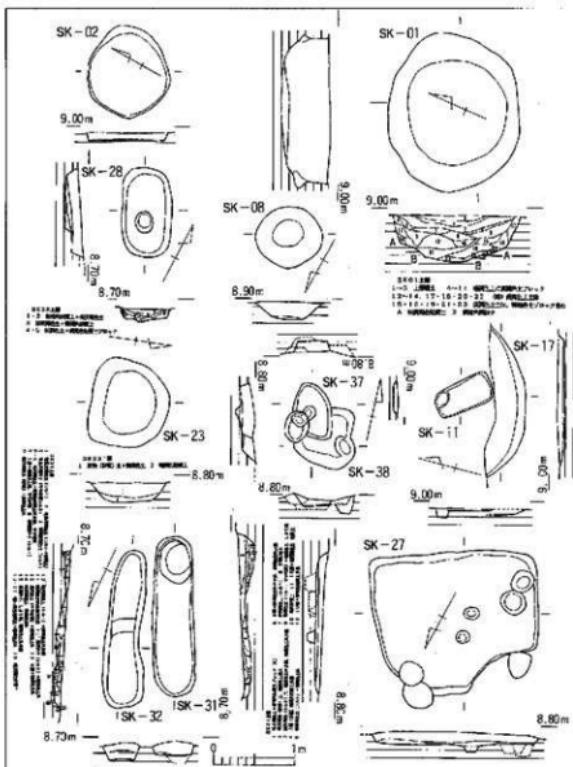


Fig. 6 土坑 (SK-01-02-08-11-17-23-27-28-31-32-37-38) 実測図 I (1/60)

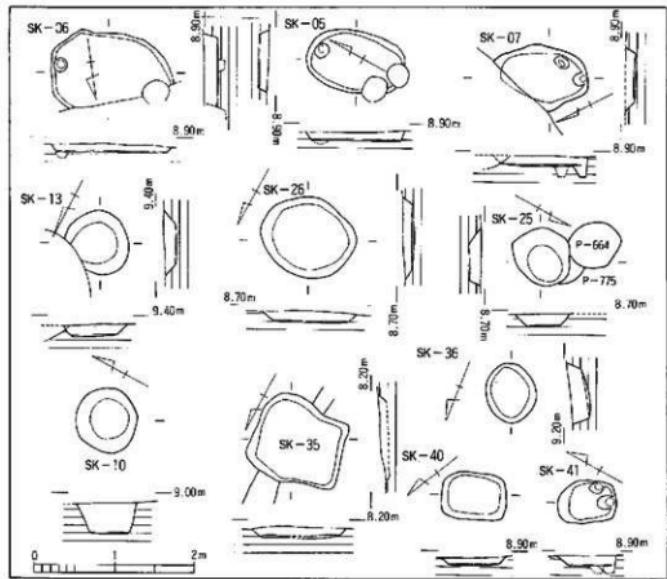


Fig. 7 土坑 (SK-05・06・07・10・13・25・26・35・36・40・41) II 実測図 (1/60)

表1 土坑一覧表 (井戸を含む)

調査番号	形状	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	Fig.番号	PL番号	参考	時代、その他の
SK-01	円形	158×162	60	6	4 12	SB 等を切ら	8世紀後半?
SK-02	円形	115×100	9	6	-	-	出生終末期?
SK-03	不整円形	78×78	48	5	-	-	柱穴? 古墳初期
SK-05	楕円形	122×76	13	7	-	-	古墳時期?
SK-06	不整円形	150×95以上	19	7	-	SD-壁を切ら	青年後期?
SK-07	不整円形	108以上(約118)×80	13	7	-	SD-壁を切ら	青年後期?
SK-08	円形	84×76	22	6	-	-	古墳中期?
SK-10	円形	81×76	38	7	-	SP-壁を切ら	古墳中期?
SK-11	菱形	75×36	4	6	-	SD-壁を切ら	時期不明?
SK-13	円形	81×76	15	7	-	SD-壁を切ら	時期不明?
SK-17	下垂側面形	186×40以上	7	6	-	SD-壁を切ら	古墳初期?
SK-23	不整円形	112×94	20	6	-	-	中世以降?
SK-25	不整円形	79×64	18	7	-	SP-壁を切ら	古墳中期?
SK-26	椭円形	118×84	14	7	-	SC-壁を切ら	11~12世紀頃?
SK-27	不整円形	206×176	14	6	-	SD-壁を切ら?	8世紀末頃?
SK-28	菱形	119×62	12	6	-	-	ト彌羅?
SK-31	透状	198×50	9(透のみ透)	6	5-14	SB-壁を切ら	上層墓?
SK-32	透状	196×40	10	6	5-14	SL-壁を切ら	上層墓?
SK-35	不整力形	112×86	15	7	-	SD-壁を切ら	時期不明?
SK-36	不整円形	74×82	20	7	-	SD-壁を切ら	時期不明?
SK-37	不整圓形	74×45	13	6	-	SD-壁を切ら	時期不明?
SK-38	不整方形	76×74	15	6	-	SD-壁を切ら	SD-日本陶器?
SK-40	馬力形	80×57	12	7	-	-	時期不明?
SK-41	不整力形	70×51	19	7	-	-	時期不明?
SE-01	円形	104×92以上	60	5	5 15	一基調査区外	古墳前期?
SE-02	不整円形	113×148	68	5	5-18	SK-等を切ら	古代から中世初期?
SE-04	不整円形	210×76以上	115	5	5-17	8世紀後半区外	古代から中世初期?
SE-06	円形	93×82	125	5	5-16	-	古墳時代中期?

して掘り始めている。

SE04(Fig.5左下、PL.5 17)

西侧調査区中央東寄りの北壁で検出した。約1/2強が調査区外にある。断面は逆台形または、SE02に近い形状である。底面は平坦ではない模様。上層の観察では井戸側の痕跡は不明であるが、堆積状

た井戸である。平面は不整円形、断面は上半が逆台形状で、中位で屈曲し、下半は箱形となる。底面は平坦ではない。土層断面の観察では、下半の箱形の部分に井戸側の痕跡とみられる黒色粘質土の部分があった。木質は残っていないが、桶状のものなどが想定できる。遺物は極めて少なく、時期比定は、困難である。しかし、井戸の構造と上層より出土した上師器壺の破片から(Fig.18-7 3)、11世紀前後が考えられる。また上層から、越州窯青磁壺の口縁の小片が出土している。なお当初この井戸はSK04と

況と掘り方から、井戸側があつたが崩壊したか抜かれたかして埋まつたものであろう。底面は灰白色粘土層に達し湧水する。遺物は極めて少なく時期比定は困難だが、土師器の坏ないし小皿の底部の破片があり、類似するSE02の時期や、遺跡の中での位置付けから推定して、10世紀後半から12世紀までの間のどこかに位置付けられよう。

3 上坑（SK）

土坑は調査区全体で約40基強検出した。Fig.6・7はその一部である。詳細については表1を参照されたいが、以下にいくつかの土坑について述べる。SK01(Fig.6右上、PL.4-12)は当初井戸とも思われた大きな円形の上坑である。底面は曲線を呈し、湧水レベルに達しない。掘り方は下層の一部で外にえぐれている。遺物も遺構の大きさのわりには極めて少なく、高棄土坑などではない。あるいは粘土掘削坑とも考えられるが確証はない。上層は、所々に地山ブロックを多く含み、あるいは埋め戻された可能性もある。時期比定は困難で、Fig.19-117は8世紀後半頃の須恵器の長頸甕の破片とみられ、この時期の可能性もあるが、土師器の小皿や壺の可能性のある小片もあり、あるいは11世紀前後に下るかもしれない。SK02(Fig.6左上)はミニチュアの壺(Fig.19-112)を1点出土し、弥生終末か。SK03(Fig.5右下)は、土坑というより柱穴である。古墳前期前葉頃で、やや大形の建物の一端をなすか。SK31・32(Fig.6左下、PL.5-14)は、SX16の覆土に掘り込まれる。南北に長い溝状ないし長槽円形状のプランであるが、覆土は青みのある黒色上で、両者は互い違いであるが一方の短辺が深くなっている。あるいは伸展葬の土壙墓かもしれない。時期は中世か。墓とした場合の副葬品はない。SK31から石鍋の破片が出土しているが(Fig.19-118)、これはSX16からの混入であろう。なお近接するSK30は円形のピット状の土坑であるが(位置は付図参照)、覆土が類似し関係するかもしれない。またSK28は(Fig.6左二列目)、覆土は異なるが、SK31などと方位が近く、類似のものか。SK27は(Fig.6右下)は、不整長方形の窪穴で、8世紀後半頃の須恵器片があり、時期を示すとみられるが、やや新しい土師器の壺の小片もある。SK23は(Fig.6左三列目)、覆土は遺構検出面の上の水田土壤に近い覆土であり、中世後期以降か。SK37・38は切りあうが(Fig.6中央)、SK37が新しく、SK38は6世紀後半から7世紀初頭のSD01の掘り方の肩にあり、こ

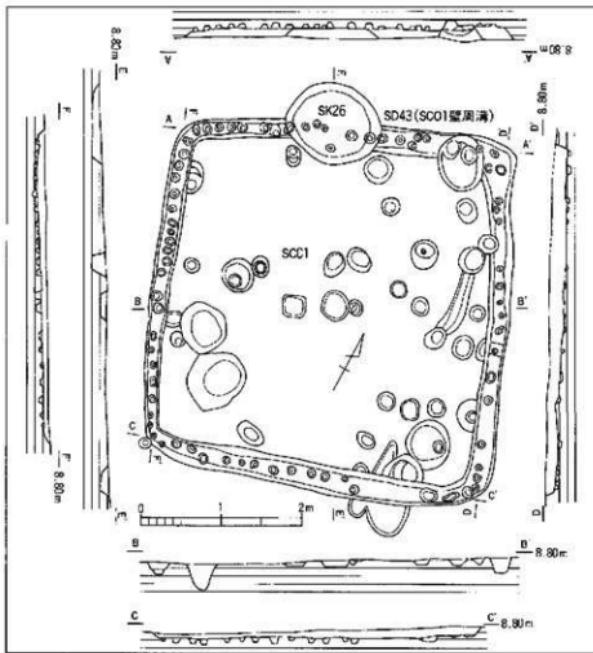


Fig.8 SC-01 実測図 (1/60)

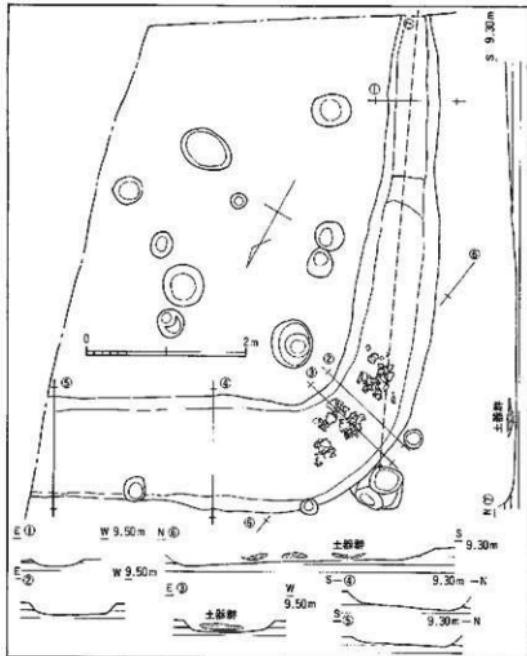


Fig.9 SD-20 実測図 (1/60)

これらは掘立柱建物を構成すると考えている (Fig.15-6)。

4 積穴式居址 (SC)

積穴式居址は2棟検出したが、いずれも残りが著しく悪いものである。また、掘立柱建物の頃で「二本柱」としたものは積穴住居であろう。また1×1間の掘立柱建物のいくつかは積穴住居であろう。また、SD36などに囲まれた部分には、主柱穴のない積穴住居址が存在した可能性がある（後述）。さらに東側調査区西半から西側調査区東半にかけては、柱穴が多く、弥生時代中期の遺物が散見されるので、あるいは円形の積穴住居址があった可能性もあるが、抽出できなかった。

SC01 (Fig.8, PL. 5-13)

西側調査区中央で検出した。積穴の掘り込みは削平で失われ、杭列状の小穴が並ぶ壁周溝（当初SD43としていた）のみが残っていた。東西4.5m、南北4.65mを測り、方形プランである。壁周溝で囲まれた部分は、地山の赤褐色土がやや汚れたような状況で、貼床が若干残っていたようである。柱穴があるが、積穴住居に直接伴うものではなく、主柱穴のないタイプのものであろう。カマドの痕跡は見られないものの、プランと規模や構造から、6~7世紀のものと考えるが、この時期を示す遺物はない。弥生土器・古式土師器の破片が少量出土した。Fig.19-108は弥生後期後葉～終末の甕である。

SC02 (Fig.12中下)

東側調査区の中央やや西の調査区北壁付近で検出した。大半が調査区外であり、東西の辺をSD05・15で切られ、プランははっきりしないが、長方形のプランになるものであろう。削平で非常に浅くなってしまっており、住居址とするのはやや苦しいが、弥生終末の土器片がいくつか出土しており、平面プランと合わせて住居址と判断した。ただし、主柱穴は検出できていない。SD27・29との切り合ひははっきりし

れと同時期か古いものである。なお、Fig.17 5の須恵器の小形の高壙の壊部片はSD01出土だが、この両者の上坑の上面から出土したものにも壊部の同一個体片がある。SK08は（Fig.6中央二列目）からは弥生中期の器台が出土している（Fig.19-106）。SK10は（Fig.7左下）、8世紀末頃の土師器の壊（Fig.19-100）と須恵器片を出土。SK26は（Fig.7中央）、SC01を切り、白磁碗片を含む。11~12世紀頃か。SK06は（Fig.7左上）、弥生終末頃のSD18に切られ、弥生後期のもの。SK25（Fig.7右二列目）とSK35（Fig.7下列中央）は、土師器の壊の破片を含み、10~12世紀頃であろう。なおSK20・21は、当初上坑と考えたが、土層断面の観察の結果、柱穴と判断したので（SK20は柱が抜かれていると判断している）、

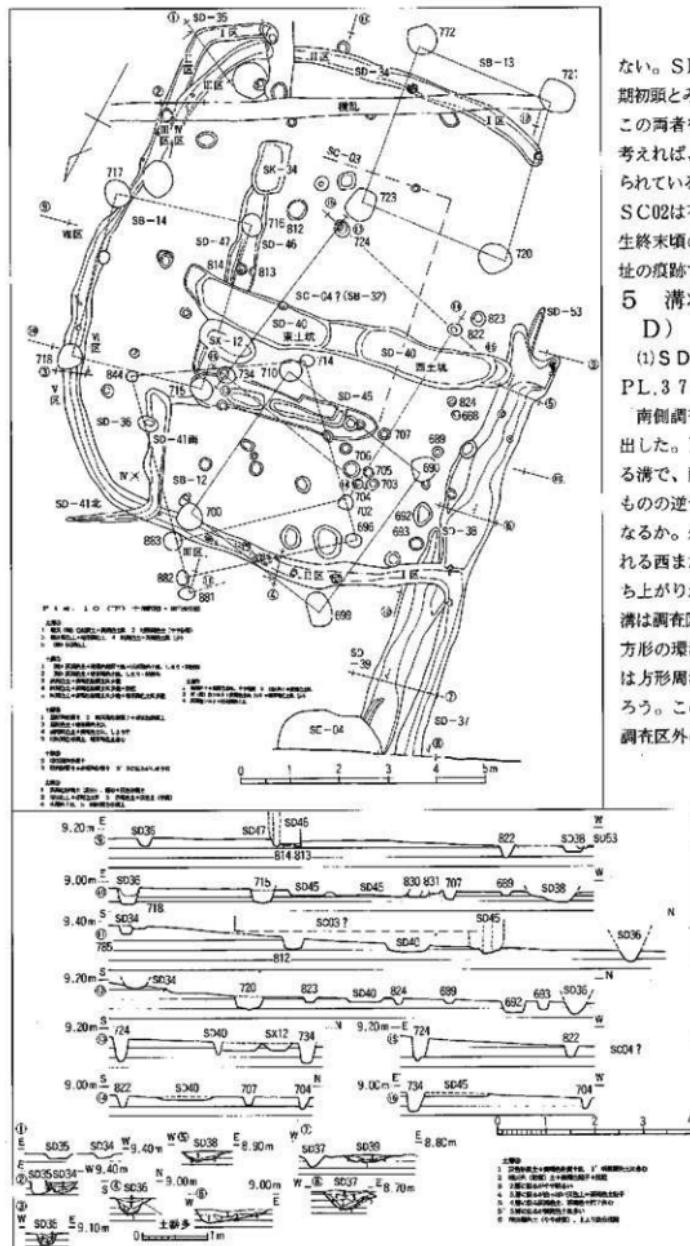


Fig.10 S D34-35-36-37-38-39-40ほか平面図(1/100)、土層図(1/80)、断面図(1/100)

ない。SD12が古墳前期初頭とみられるので、この两者をその続きと考えれば、SC02は切られていることになる。SC02は不明瞭だが弥生終末頃の竪穴式住居址の痕跡であろう。

5 溝状遺構(SD)

(1) S D 20 (Fig. 9, PL. 3-8)

南側調査区東端で検出した。L字状に曲がる溝で、削平が著しいものの逆台形の断面になるか。外側と判断される西または北側の立ち上がりが若干緩い。溝は調査区の外に延び、方形の環溝か、もしくは方形周溝基になるだろう。この溝の東側の調査区外に関しては、

反転の際に重機で表土を剥いで遺構を確認したところ、主体部のようなものは認められなかったが、削平が顕著なので何とも言えない。南北6.2m以上、東西4.7m以上を測る。遺物はコーナー一部分に集

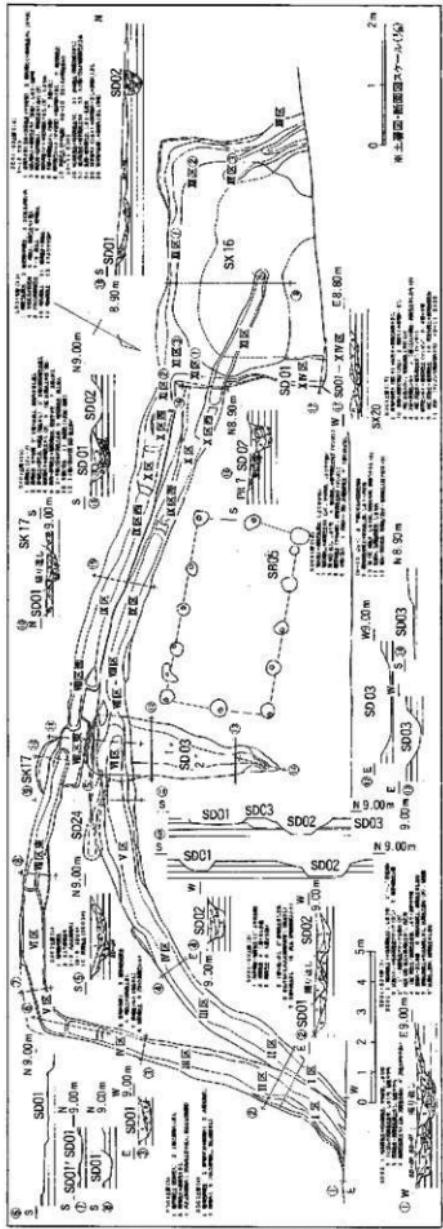


Fig.11 SD-01-02-03 實測圖 (1/160)

中して古墳初頭の古式土器が出土した。ほとんどが在来系のもので、外米系土器はごく僅かである。(Fig.18-45~56)。また接合状況からすると、ここに据え置かれたものとするより、別の場所で壊れたものが廃棄された可能性が高い。ただし底面直上に出土し、しかもコーナー部分という状況は、何らかの祭祀的行為を想定できる。よく見ると、幅30cm弱の土器を出土しない部分があり、あるいは「通路」かもしれない。この意味でも方形周溝墓(方墳?)の可能性を示唆する。なお在来系土器を多く出土する古墳初頭の方形周溝墓の例には、福岡県小郡市横隈山遺跡3号方形周溝墓がある。

(2) S D34~39、40ほか (Fig.10, PL. 4-9)
 SD34・35・36・37・38・39は一連の溝で、一定の空間を不整円形または不整方形に囲む一種の環溝である。SD35はSD34に切られ、SD39はSD36・37に、SD53はSD38に切られるが、全体の配置からは、SD35とSD33・39は本来SD36とも一連のもので、振り直された結果、SD34・36・37・38の環溝となつたものだろう。両者の溝群の土器は、古いほうが古墳前期初頭 (II A-II B期)、新しいほうが前期前葉から中頃 (II B-II C期) であり (Fig.19-75~98)、厚敷地の存続期間を示す。溝の底面は、SD34・35のある北のほうから左回りに低くなつてゆき、SD38・37(古いほうはSD53・39)に合流し、北に向かって低くなる。排水的な機能を考えることができる。なお、SD36の南側には土器が集中して廃棄されており、器種も壺を中心とし、日常的な生活空間の色彩が強い。

これらの溝に開まれた空間には、削平されているが堅穴住居が存在した可能性が高い。SK34とSD46・47、SD50、SD45は一連のものとみられ、特にSD47(SD46の一部)とSD50、SD45の内部の細かい溝は堅穴住居の壁周溝と考えられる。南・西辺は不明なもの、東西約3.9m×南北約5.5mほどの堅穴住居が想定できる(SC03)。ただし、主柱穴は無い。SD46の内部のSP-814出土

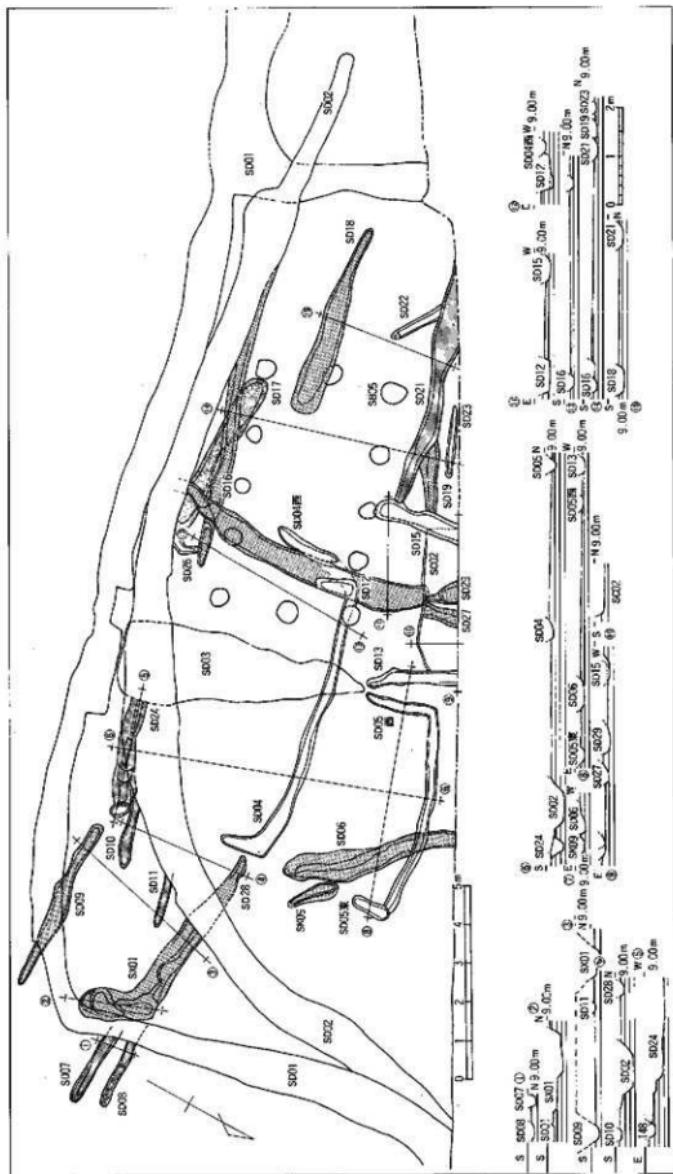


Fig. 12 SD-04~13·16~19·21~24·26·27·29、SX-01、SK-09、
SC-20 実測図 (1/125、断面1/100)

の鉢形上器片は、SD34のものと接合している (Fig. 17-77)。さらに S P - 724 · 734 の両者の覆土や掘り方や底面レベルが類似し、柱が西側から立てられた点でも伴うと考えられ、これを S B32 とい、二本柱の堅穴生居であった可能性が考えられる (SC 04)。これには S P - 822 · 704 が伴い四本柱になる可能性もあるが、柱筋がゆがむのでこの想定は無理か。

SD40は、SD38やSD46 (=SC03)を切り、時期は不明だが、方向や他の遺構との関係から、SD01の時期ではないかと考える。東側と西側がそれぞれやや深くなつて土坑状になる。

Fig. 19-113 は

ミニチュア土器で、古式土師器の小形器台を写したものであり、本来は上記の古墳前期の遺構群に関係するものであろう。SD41は、SD36を切るL字状の小溝であるが、根拠は薄弱だが、やはりSD01に近い時期（6～7世紀）の堅穴住居の壁周溝の痕跡と考えられる。

(3) SD01・02(Fig.11, PL.1-1, 2-2・3, 3-4)

東側調査区から西側調査区の東端にかけて検出した。SD01がSD02を切る。SD01は略方形の環溝で、SB05を伴い、調査区外北側に延びる想定される。SD02は逆に丘陵の縁辺を囲む可能性もある。西側調査区部分では、SX16との関係が当初不明確で、SD01として取り上げた遺物の一部はSX16のものとみられる。SD01の西側の部分は、溝が分かれ、別区状となる。SD01のXIII区の下層は、断面の形状からSD02の続きである可能性がある。SD02はXI区の西で一度途切れるので、この間はあるいは出入り口かもしれない。上層断面を観察すると、SD01・02とも、部分的なものの可能性もあるが、掘り返しや数度の溝さらえの痕跡がある。また溝の底面が、数ヶ所段状になる部分があり（特にSD01）、掘削単位を示すか。SD01からは須恵器や土師器が出土し（Fig.17-1～9）、九州須恵器編年ⅢB～ⅣA期にわたり、掘り返しを考慮して、6世紀後半から7世紀初頭にかけて機能した環溝であろう。2×4間の掘立柱建物（SB05）を伴うとすれば、上位階層の居住的な遺構であろう。なお、SD01には古式土師器・弥生土器も出土している。SD02からは、量はやや少ないが古式土師器を出土し、溝の掘削時期は古墳前期初頭で、掘り返しと、土器の様式幅を考慮して、古墳前期中頃まで機能した可能性がある。Fig.17-11は、XI区西端より出土したもの（PL.3-6）、布留1式併行（II B期）の壺D（北部九州の布留式壺）である。SD02の北側には、同時期の遺構では確定なものがない。

(4) SD03(Fig.11)

SD01・02に囲まれた部分の中央に、それらと直交して検出された。SD02に切られるが、溝の時期は出土土器から古墳初頭（II A期）であり（Fig.17-21～28）、SD02と接する時期で、SD02の掘り返しを考慮すると、当初は一連の溝であった可能性が高い。溝は北端で細くなっている。地形的に低くなる方向であり、あるいは溝の中への入口であったとも考えられる。

(5) SD06・07・08・09・10・11・12・16・17・18・21(Fig.12)

これらはSD01・02に終むか、その北側にある溝のうち、弥生時代から古墳時代前期のものである。このうちSD17は弥生中期後半の土器片を出土し（Fig.19-102・103）、その時期であろう。またSD12は、SD16・17を切り、SD02に切られるが古墳初頭の在来系の丸底の壺形土器片を含み、SD03と共に時期的に共存するか。SD08・09と溝状のSX01からSD21にかけての溝の列と、SD09・24・16(18?)の溝の列は平行し、いずれも出土土器から弥生後期後葉から終末期と思われ、この間にはさまれた空閑地はあるいは道状のものかもしれない。削平を勘案すれば、本来は幅1.5-2m程度のものである。道でなければ、並行する二つの溝列は、二重の環濠かもしれない。この場合丘陵の裾を切り、集落の中心は溝群の南側となる。いずれにしても興味深い。これらの溝のうちSD24は、底面が階段状になっている。SD06は、小形丸底壺の破片を出土し、下限は古墳前期前葉にあるが、上記の溝群の北側の列が、SX01とSD21の間で途切れることからすると、あるいは“道”が、この部分で北に枝分かれするのかもしれない。この場合掘削時期は弥生終末にさかのばるかもしれない。

(6) SD04・05(Fig.12)

いずれも「コ」字状の小溝で、SD04はSD12を、SD05はSD06を切る。おそらく削平された堅穴住居の壁周溝の痕跡と考える。いずれも遺物は少なく時期比定は困難だが、弥生終末ないし古墳前期の溝を切る点などから、SD01に伴う時期のものと推定する。SD04はSB05に切られる。なお、SD13・15は、遺物ではなく分からぬが、これらと同様の時期になる可能性がある。

6 挖立柱建物（SB）

調査区全体で約40棟前後検出ないし復元した。現場では、主要な柱穴について、平板図における柱穴の配置や、覆土の色・質、掘り方の深さ・形状、半裁した土層断面を常に見ながら、柱穴の組みあわせによる建物の復元に努め、上記のうち約半数を現場において推定した。残りは図上で推定したものである。このうち「二本柱」としたものは、掘り方・上層の観察から、他に組みあう柱穴が無いが、その二つは関連性が極めて高いと判断したもので、おそらく弥生後期から終末（一部は古墳前期か）の堅穴住居の削平されたものであろう。また、 1×1 間の建物のうち、柱穴が比較的深く、調査区が北に向かって低くなると無関係に柱穴の底面のレベルが近似するものは堅穴住居（古墳前期か）の可能性が高い。柱穴の半裁は、現場で建物を構成すると判断した比較的多くについて適宜行い、上層図を作成したが、今回の報告ではそのほとんどについて割愛している。各建物（全てではない）の詳細については、表2の掘立柱建物一覧表を参照されたい（図は、Fig.13・14・15）。

これらのうち、SB01・03・04（いずれもFig.13）はほぼ同一方向で、同時期のものであろう。時期比定は難しいが、SB03の柱穴のいくつかから土師器の壺の破片が出土しており、SP-26からは土師器壺の底部片があり、やや厚く板目圧痕のあるものは13世紀頃のものと考えられ（ただし切り離しの調整は摩滅不明）、これらの建物群の時期を示すか。なおSB03は構造的に厩屋の、SB04は倉庫の可能性がある。SB03と切りあう形になるSB26は（図は付図参照）、柱穴より奈良時代頃の須恵器や土師器の破片が出土しており、Fig.19-101の土師器の変形土器は8世紀末頃のものか。SB05は（Fig.14）、位置的にSD01・02のいずれかに伴うと思われ、柱穴内の遺物の下限は古式上部器であるものの、SD02とは近接しすぎており、SD01に伴うと考える。これは柱穴と、いくつかの溝との切り合いからしても妥当であろう。Fig.19-119は、この柱穴の一つのSP-161から出土したミニチュアの土製品（の一部）だが、あるいは土馬に類する土製品かもしれない。この建物の柱間の一部には東柱があり、建物中央には墨内棟持柱がある。SB12・13・14は、SD36と切りあうが、いずれも柱穴の形状・掘り方・建物の方位や形態・規模が類似し、前後する時期のものであろう。Fig.19-100の土師器小皿は、SD36-III区出土と記されて取り上げられていたが、明らかに別の時期のもので、SB12を構成するSP-700の可能性が高い。この場合、SB12は12世紀後半前後となる。SB15・17はこれらと方位が近いが、柱間と柱穴の掘り方が異なり、弥生終末ないし古墳前期に属する可能性が高い。SB17のSP-646より、ほぼ完形の弥生終末の鉢形土器が出土している（Fig.19-109）。SB06は、 1×1 間の建物だが、先述した理由で堅穴住居の削平であろう。ただし、堅穴住居の柱穴は経験的に柱が抜き取られている場合が多いが、この建物の柱穴は全て柱痕があった。SP-300より大形の石錘の破片が出土している（Fig.20-14、出土状況はPI.6-25）。SB09は、そのうちの柱穴一つより底面近くで弥生中期の上器片が出土し（Fig.19-114～116）、時期も弥生中期後半であろう。SB37は（Fig.15）、二本柱の堅穴住居の削平とみられるが、このSP-808からは、やや大形の鉢形土器（弥生終末）がほぼ完形で出土している（Fig.19-104）。これらの建物の時期比定は、各柱穴内の遺物や、方位、建物の規模・形態・構造、柱穴の掘り方・覆土、及び切り合い関係から総合的に判断しているが、遺物も多くは小破片のみで、上限を示すにとどまり、実際はなかなか難しく断定できない部分もあることをお断りしておく。

7 不明遺構（SX）

検出時において、土坑とも溝ともつかない不整形の遺構や、プランや掘り方の不明確なものを不明遺構（SX）とした。土坑（SK）や溝（SD）などに編入すべきものもあり、一部は調査後変更しているが、多くはそのままになっている。ここでは、調査当初「包含層」としたSX16・17について記述する。

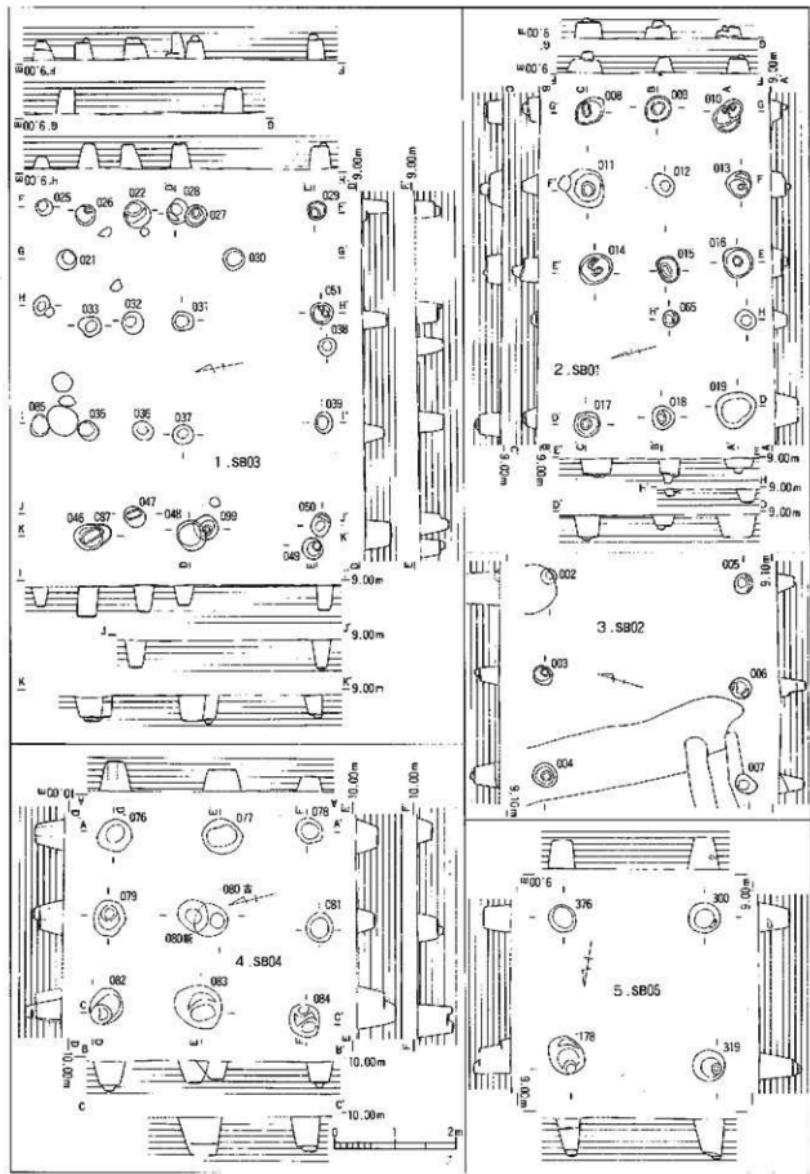


Fig.13 据立柱建物実測図 I (1/80) ※柱穴の横の数字はP i t番号

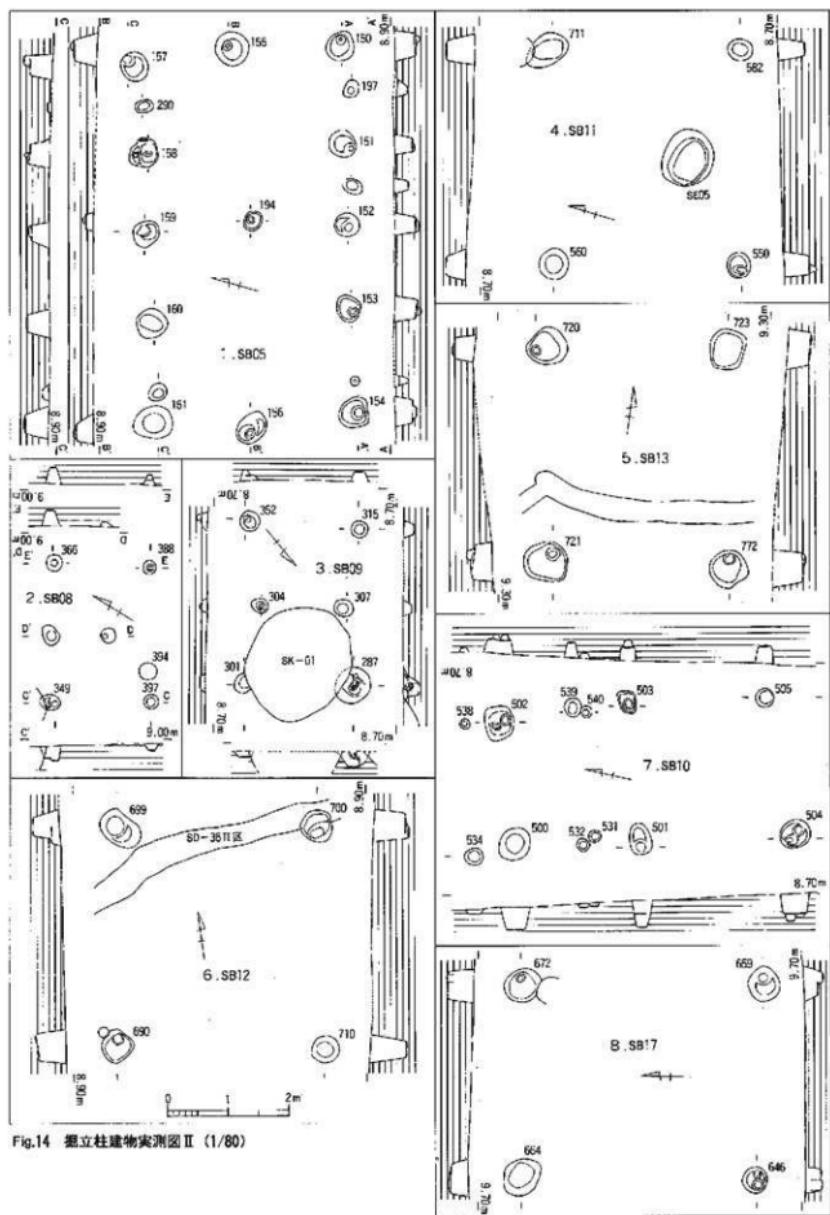


Fig.14 据立柱建物実測図 II (1/80)

表2 埋立柱建物一覧表

遺跡番号	規模 (梁行×桁行)	建物の形状 (梁行×桁行)	方位	Fig.	PL.	時期
SB-01	2.4×5.16(±)	2×3間	N-7°-W N 7° 3	13-2 13 3	6-22 6 20	12~13世紀
SB-02	3.26×3.34	1×2	-	-	-	古墳前期?
SB-03	4.59×5.50	2×3	N-16°-W N 16° 1	13-1	6-23	12~13世紀?
SB-04	2.18×2.28	2×2	N-14°-E N 14° 4	13-4	6-21	12~13世紀?
SB-05	3.56×6.0	2×4	平面建物か N-15°-E N 15° 1	13-1	6-19	古墳後半~末?
SB-06	2.42×2.52	1×1	壁穴住居? N-8°-E N 8° 5	13-5	6-24	古墳後期?
SB-07	1.42×1.66	1×1	N-23°-E N 23° 3	16-3	7-28	弥生(後期~終末)?
SB-08	1.58×2.32	1×1	N-58°-E N 58° 2	14-2	-	古墳前期?
SB-09	1.80×2.60	1×2	N-89°-E N 89° 3	14-3	7-25	弥生中期後半
SB-10	2.10×4.56	1×2	N-22°-W N 22° 7	14-7	7-26	古墳前期?
SB-11	3.16×3.56	1×1	N-13°-E N 13° 5	14-5	7-33	古墳前頭
SB-12	3.40×3.45	1×1	N-8°-E N 8° 6	14-6	4-9	12世紀初?
SB-13	3.16×3.44	1×1	N-8°-W N 8° 5	14-5	4-9	12世紀初?
SB-14	2.78×3.46	1×1	N-15°-W N 15° 1	15-1	4-9	12世紀初?
SB-15	3.38×4.24	1×1	N-1°-E N 1° 5	15-7	-	弥生(後期~終末)?
SB-16	2.45×3.05	1×2	N-14°-W N 14° 2	15-2	7-31	古墳前頭?
SB-17	3.88×3.40	1×1	壁穴住居? N-1°-W N 1° 7	14-7	7-27	弥生終末?
SB-18	4.58×	2×?	N-9°-W N 9° 3	15-3	7-30	中代前頭?
SB-19	2.004±1.405±0.11	1以上×3以上	-	-	-	中代前頭?
SB-21	3.35×	1×?	大形建物? N-6°-E N 6° 6	15-6	-	弥生?
SB-22	2.23×2.33	1×1	N-6°-W N 6° 4	15-4	-	時代不明
SB-25	1.92×2.15	1×2	N-13°-E N 13° 10	15-10	-	弥生?
SB-30	-	2本柱 突穴住居	N-8°-E N 8° 2	16-2	-	弥生(後期~終末)?
SB-31	(2.05±) 7	2本柱 7 突穴住居	N-8°-E N 8° 8	15-8	-	弥生(後期~終末)?
SB-32	-	2本柱 (1×1?) 突穴住居か	N-9°-E N 9° 1	10-1	4-9	古墳前頭
SB-33	3.52×3.54	1×1 旗杆	N-6°-W N 6° 16	-	-	弥生終末?
SB-36	-	2本柱 突穴住居	N-6°-W N 6° 11	-	-	弥生(後期~終末)?
SB-37	-	2本柱 突穴住居	N-8°-W N 8° 12	-	-	弥生終末
SB-38	-	2本柱 突穴住居	N-8°-W N 8° 9	-	-	弥生(後期~終末)?
SB-39	-	2本柱 突穴住居	N-8°-W N 8° 9	-	-	弥生(後期~終末)?

S X16・17(Fig.11参照、およびPL. 3-4)

西側調査区の北東部分で検出した。遺構プランははっきりせず、全体的に浅く、一種の地形の凹みの遺物包含層であるが、SD01・02と絡みこれを切る形であるので、あるいは人為的なものである可能性もある。あるいは圍池かもしれない。このSX16の時期は遺物より11世紀前後と考えられ(Fig.17-29~43参照)、周囲に同時期の建物が集まり、有機的な関係が考えられる(Fig.21-N)。SX17はSX16の東側のやや深い部分である。これらの底面は凹凸があり、生痕状の小穴が多数認められ、池とする想定もあながち否定できない。

8 出土遺物

(1)土器 (Fig.17・18・19、PL. 8)

土器の観察については、表3の上器観察表を参照されたい。なお、須恵器の時期は小田宮士雄氏の九州編年に準拠し、古代からの中世の土器の時期は、太宰府資料による各氏の編年に依拠した。古式土師器の編年は、詳細は後日に期したいが、筆者の独自のものであり、以下に簡単に説明しておく。二期とは、在来系土器が残存しつつ消長してゆく時期で、在来系土器は丸底が大部分の段階である。既往の編年

表3 土器観察表

品目	遺物名	測量記述	主な特徴	丸底	筒型	平底	斜面	底面
1-1	土器	直筒形土器	直筒形土器	○	○	○	○	○
1-2	土器	直筒形土器	直筒形土器	○	○	○	○	○
1-3	土器	直筒形土器	直筒形土器	○	○	○	○	○
1-4	土器	直筒形土器	直筒形土器	○	○	○	○	○
1-5	土器	直筒形土器	直筒形土器	○	○	○	○	○
1-6	土器	直筒形土器	直筒形土器	○	○	○	○	○
1-7	土器	直筒形土器	直筒形土器	○	○	○	○	○
1-8	土器	直筒形土器	直筒形土器	○	○	○	○	○
1-9	土器	直筒形土器	直筒形土器	○	○	○	○	○
1-10	土器	直筒形土器	直筒形土器	○	○	○	○	○
1-11	土器	直筒形土器	直筒形土器	○	○	○	○	○
1-12	土器	直筒形土器	直筒形土器	○	○	○	○	○
1-13	土器	直筒形土器	直筒形土器	○	○	○	○	○
1-14	土器	直筒形土器	直筒形土器	○	○	○	○	○

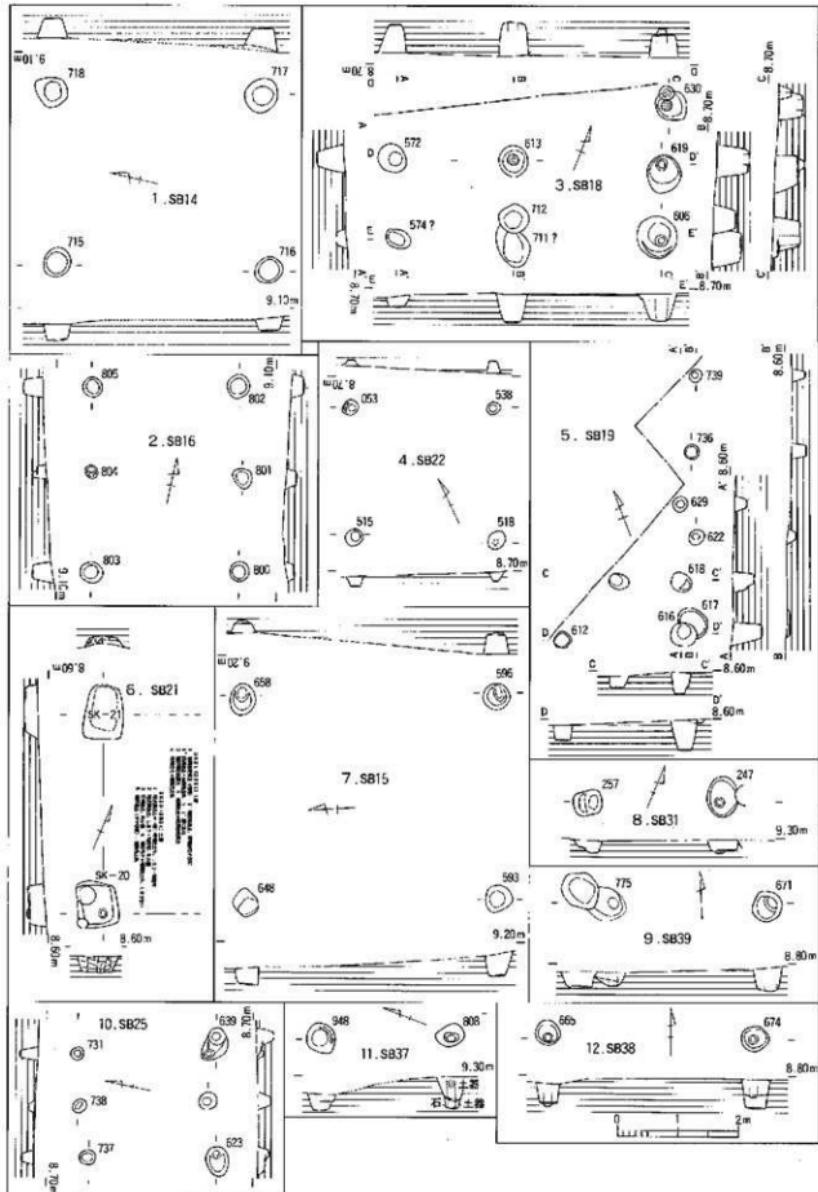


Fig.15 据立柱建物実測図Ⅲ (1/80)

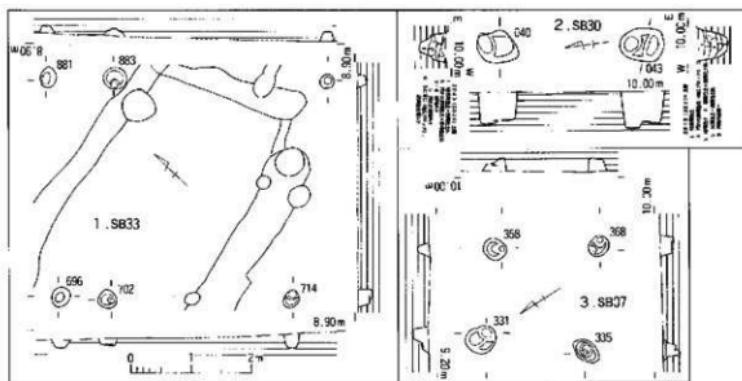


Fig.16 基立柱建物実測図N (1/80)

●表3 (つづき)

11-1	壁面	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017	1018	1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027	1028	1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039	1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048	1049	1050	1051	1052	1053	1054	1055	1056	1057	1058	1059	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066	1067	1068	1069	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079	1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089	1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098	1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108	1109	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116	1117	1118	1119	1120	1121	1122	1123	1124	1125	1126	1127	1128	1129	1130	1131	1132	1133	1134	1135	1136	1137	1138	1139	1140	1141	1142	1143	1144	1145	1146	1147	1148	1149	1150	1151	1152	1153	1154	1155	1156	1157	1158	1159	1160	1161	1162	1163	1164	1165	1166	1167	1168	1169	1170	1171	1172	1173	1174	1175	1176	1177	1178	1179	1180	1181	1182	1183	1184	1185	1186	1187	1188	1189	1190	1191	1192	1193	1194	1195	1196	1197	1198	1199	1200	1201	1202	1203	1204	1205	1206	1207	1208	1209	1210	1211	1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220	1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230	1231	1232	1233	1234	1235	1236	1237	1238	1239	1240	1241	1242	1243	1244	1245	1246	1247	1248	1249	1250	1251	1252	1253	1254	1255	1256	1257	1258	1259	1260	1261	1262	1263	1264	1265	1266	1267	1268	1269	1270	1271	1272	1273	1274	1275	1276	1277	1278	1279	1280	1281	1282	1283	1284	1285	1286	1287	1288	1289	1290	1291	1292	1293	1294	1295	1296	1297	1298	1299	1300	1301	1302	1303	1304	1305	1306	1307	1308	1309	1310	1311	1312	1313	1314	1315	1316	1317	1318	1319	1320	1321	1322	1323	1324	1325	1326	1327	1328	1329	1330	1331	1332	1333	1334	1335	1336	1337	1338	1339	1340	1341	1342	1343	1344	1345	1346	1347	1348	1349	1350	1351	1352	1353	1354	1355	1356	1357	1358	1359	1360	1361	1362	1363	1364	1365	1366	1367	1368	1369	1370	1371	1372	1373	1374	1375	1376	1377	1378	1379	1380	1381	1382	1383	1384	1385	1386	1387	1388	1389	1390	1391	1392	1393	1394	1395	1396	1397	1398	1399	1400	1401	1402	1403	1404	1405	1406	1407	1408	1409	1410	1411	1412	1413	1414	1415	1416	1417	1418	1419	1420	1421	1422	1423	1424	1425	1426	1427	1428	1429	1430	1431	1432	1433	1434	1435	1436	1437	1438	1439	1440	1441	1442	1443	1444	1445	1446	1447	1448	1449	1450	1451	1452	1453	1454	1455	1456	1457	1458	1459	1460	1461	1462	1463	1464	1465	1466	1467	1468	1469	1470	1471	1472	1473	1474	1475	1476	1477	1478	1479	1480	1481	1482	1483	1484	1485	1486	1487	1488	1489	1490	1491	1492	1493	1494	1495	1496	1497	1498	1499	1500	1501	1502	1503	1504	1505	1506	1507	1508	1509	1510	1511	1512	1513	1514	1515	1516	1517	1518	1519	1520	1521	1522	1523	1524	1525	1526	1527	1528	1529	1530	1531	1532	1533	1534	1535	1536	1537	1538	1539	1540	1541	1542	1543	1544	1545	1546	1547	1548	1549	1550	1551	1552	1553	1554	1555	1556	1557	1558	1559	1560	1561	1562	1563	1564	1565	1566	1567	1568	1569	1570	1571	1572	1573	1574	1575	1576	1577	1578	1579	1580	1581	1582	1583	1584	1585	1586	1587	1588	1589	1590	1591	1592	1593	1594	1595	1596	1597	1598	1599	1600	1601	1602	1603	1604	1605	1606	1607	1608	1609	1610	1611	1612	1613	1614	1615	1616	1617	1618	1619	1620	1621	1622	1623	1624	1625	1626	1627	1628	1629	1630	1631	1632	1633	1634	1635	1636	1637	1638	1639	1640	1641	1642	1643	1644	1645	1646	1647	1648	1649	1650	1651	1652	1653	1654	1655	1656	1657	1658	1659	1660	1661	1662	1663	1664	1665	1666	1667	1668	1669	1670	1671	1672	1673	1674	1675	1676	1677	1678	1679	1680	1681	1682	1683	1684	1685	1686	1687	1688	1689	1690	1691	1692	1693	1694	1695	1696	1697	1698	1699	1700	1701	1702	1703	1704	1705	1706	1707	1708	1709	1710	1711	1712	1713	1714	1715	1716	1717	1718	1719	1720	1721	1722	1723	1724	1725	1726	1727	1728	1729	1730	1731	1732	1733	1734	1735	1736	1737	1738	1739	1740	1741	1742	1743	1744	1745	1746	1747	1748	1749	1750	1751	1752	1753	1754	1755	1756	1757	1758	1759	1760	1761	1762	1763	1764	1765	1766	1767	1768	1769	1770	1771	1772	1773	1774	1775	1776	1777	1778	1779	1780	1781	1782	1783	1784	1785	1786	1787	1788	1789	1790	1791	1792	1793	1794	1795	1796	1797	1798	1799	1800	1801	1802	1803	1804	1805	1806	1807	1808	1809	1810	1811	1812	1813	1814	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823	1824	1825	1826	1827	1828	1829	1830	1831	1832	1833	1834	1835	1836	1837	1838	1839	1840	1841	1842	1843	1844	1845	1846	1847	1848	1849	1850	1851	1852	1853	1854	1855	1856	1857	1858	1859	1860	1861	1862	1863	1864	1865	1866	1867	1868	1869	1870	1871	1872	1873	1874	1875	1876	1877	1878	1879	1880	1881	1882	1883	1884	1885	1886	1887	1888	1889	1890	1891	1892	1893	1894	1895	1896	1897	1898	1899	1900	1901	1902	1903	1904	1905	1906	1907	1908	1909	1910	1911	1912	1913	1914	1915	1916	1917	1918	1919	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	1942	1943	1944	1945	1946	1947	1948	1949	1950	1951	1952	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099	2100	2101	2102	2103	2104	2105	2106	2107	2108	2109	2110	2111	2112	2113	2114	2115	2116	2117	2118	2119	2120	2121	2122	2123	2124	2125	2126	2127	2128	2129	2130	2131	2132	2133	2134	2135	2136	2137	2138	2139	2140	2141	2142	2143	2144	2145	2146	2147	2148	2149	2150	2151	2152	2153	2154	2155	2156	2157	2158	2159	2160	2161	2162	2163	2164	2165	2166	2167	2168	2169	2170	2171	2172	2173	2174	2175	2176	2177	2178	2179	2180	2181	2182	2183	2184	2185	2186	2187	2188	2189	2190	2191	2192	2193	2194	2195	2196</

表3 (つづき)

表4 石器觀察表 (Fig-20)

番号	器種	長さ/幅/厚さ(cm)※()は残存部	材質	遺存度	出土遺物・部位等	備考
1	ナイフ形石器	(2.5) / 1.1 / 0.5	黒曜石	先端部欠損	調査区内採集	
2	石鏸	(1.7) / 1.5 / 0.5	ガラス質安山岩	先端部欠損	SD-40系土坑	混入品、縄文早期?
3	石鏸	(1.1) / 1.0 / 0.2	黒曜石	先端部・側縁欠損	SK-45	混入品、縄文早期?
4	石鏸	(1.4) / (1.2) / (0.3)	黒曜石	側縁のみ	SK-45	混入品、縄文早期?
5	石鏸	2.6 / 1.2 / 0.4	黒曜石	片側・一部欠損	調査区内採集	弥生時代か
6	石鏸	(2.3) / 1.8 / 0.5	黒曜石	先端部欠損	調査区内採集	縄文早期?
7	石鏸	(2.1) / (1.3) / 0.3	黒曜石	先端部・片脚欠損	調査区内採集	
8	砕石	(9.3) / (5.5) / (3.0)	砂岩	一边欠損	SX-16	
9	圓石	(10.8) / (5.4) / (2.3)	粘板岩	破片	SP-805	
10	四石	9.0 / 8.5 / 4.1	砂岩	完形	SC-01 N区	
11	四石	15.7 / 12.7 / 4.8	閃綠岩	完形	SD-01 N区西半	
12	四石	15.0 / 11.5 / 5.9	結晶花崗岩(花崗岩)	完形	SD-02 N区	砕石として名利用
13	石鏸	3.8 / 2.2 / 1.9	滑石	完形	SX-01	発生終末
14	石鏸	(12.0) / (7.0) / (5.3)	滑石(菱鉱岩?)	破片	SP-300	(古墳前?)
15	不明品(石礫?)	8.9 / 6.3 / 1.9	滑石?	完形	SD-02 X区西端	四面に敲打痕
	複数	(1.8) / (4.9) / (0.8)	熱成岩	側縁のみ	SD-14 I区?	混入品

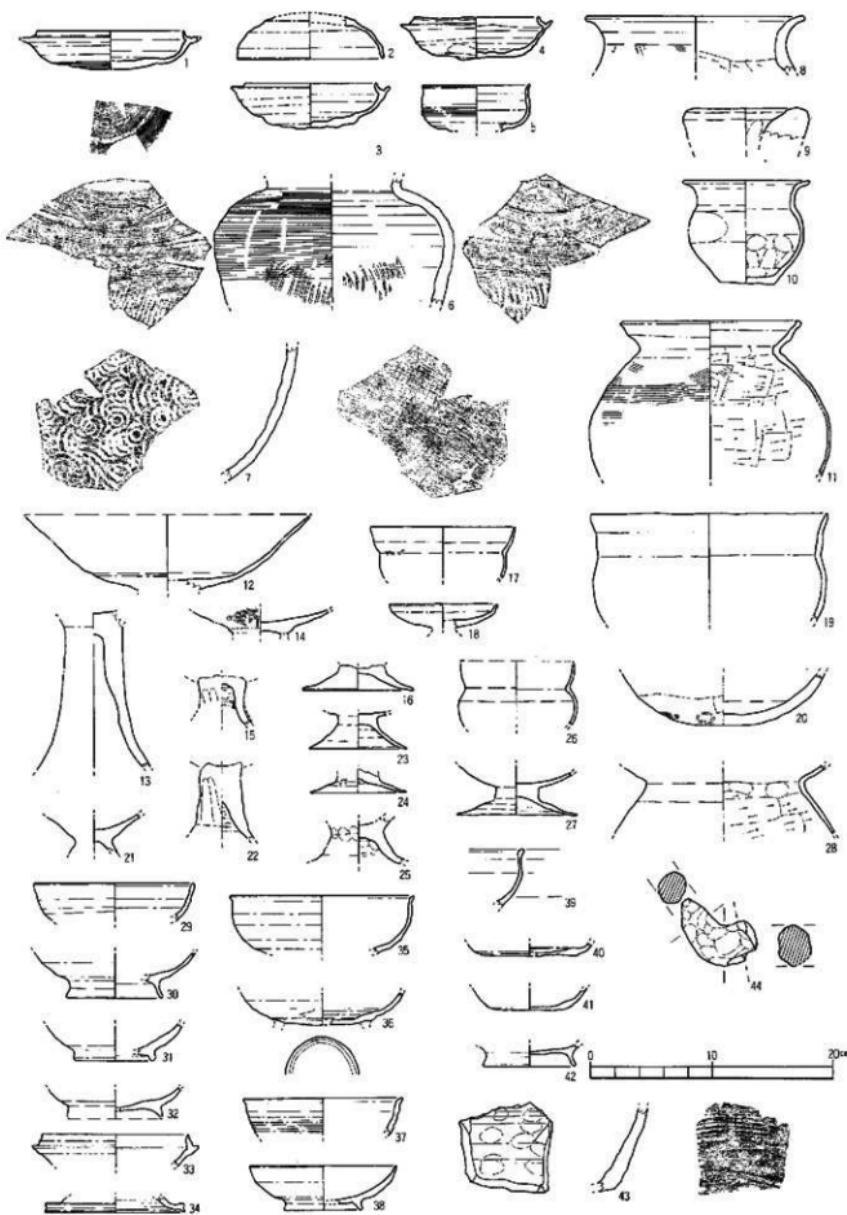


Fig.17 土器実測図 I (1/4)

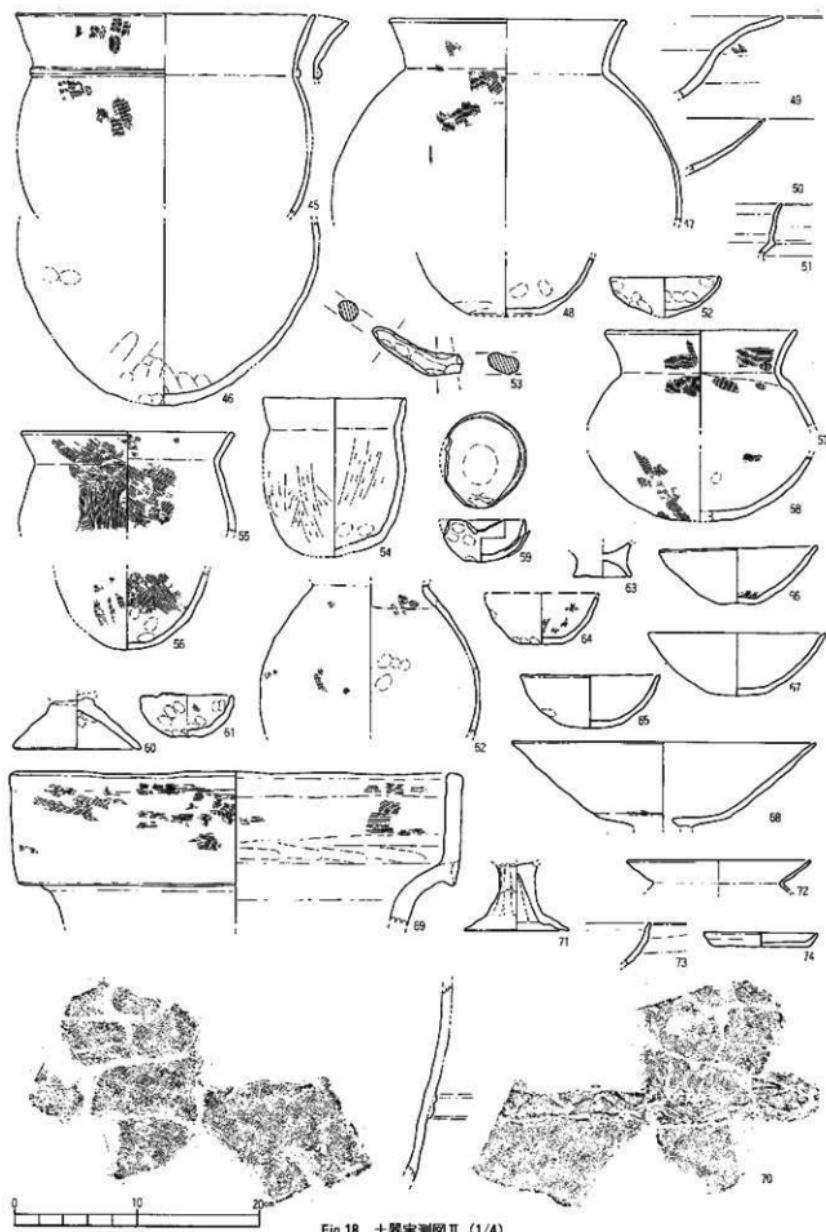


Fig.18 土器実測図Ⅱ (1/4)

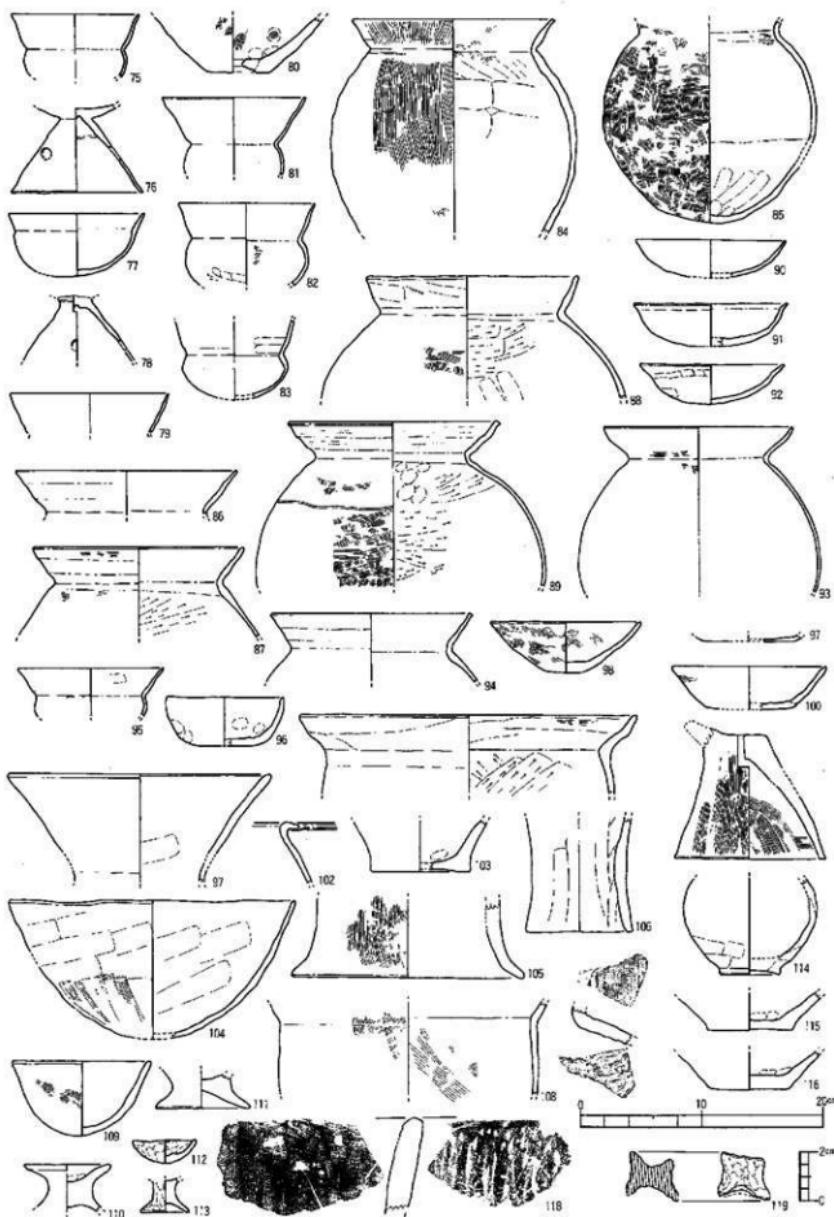


Fig.19 土器実測図Ⅲ (1/4)



Fig.20 石器 (1/1·2/3·1/3), 鉢器 (1/2) 実測図

との対照では、II A期は柳田康雄氏の編年のII a、幾内の布留O式（縦向3式）に、II B期は同じくII aの一部とII bの古相、布留I式古相に、II C期は同じくII bの新相、布留I式新相から布留II式古相にそれぞれ対応するものである。SD20（在米系主体）とSD03（外来系主体）がII A期の、SE05（両者混在）がII B期の、SD36がII C期の一括資料である。なおI期は、在来系主体の時期で、甕はレンズ底または尖底で（丸底は少量）、むしろ弥生終末である。甕の形式分類で、Aは在米系、Cは庄内甕、Dは布留系甕であり、A（D）とは甕Aの技法で甕Dを模倣したものを指す。

(2)石器 (Fig.20-1~16)

これらの観察については表4を参照されたい。このうち16は現のようだが、出土遺構はSD34とするが、これは誤りで他の遺構の混入品であろう。他の石器・石製品も、厳密に出土遺構に伴うと考えられるのは少ない。なお表4の作成には、田上勇一郎・吉留秀敏の御協力を賜った。

(3)鉄器 (Fig.20-17・18)

17は刀子である。SK12(撹乱)から出土。占墳時代以降のものである。茎の大部分と刃部の推定1/2程度を欠失する。残存長5.7cm、最大幅2.0cm。背の厚みは3.5-4.5mm。保存状況は良好。

18は鉄鎌でSD34のII区から出土。弥生終末から古墳初頭のやや大形の平根鎌の基部片である。基部下辺が内湾する。幅3.35cm、残存長2.1cm、厚みは5-6mmを測る。鎌が著しい。

IV まとめ

以上の遺構・遺物の検討をもとに、Fig.21に遺構群の変遷を示した。なお弥生中期後半の遺構として、SD17・S1309・SK08などがあり、調査区中央の柱穴群に同時期の住居があるかもしれない。I期からII期とした弥生終末から占墳前期の時期が、本調査地点で最も遺構が多い時期である。III期のSD01とS1305などは、上位階層の環溝を有する居宅であろう。IV期のうち、特に11-13世紀の遺構群は、輸入陶磁器が少ない点等から、高階層ではない、農民層の村落であると考えられる。

なお本報告では参考文献等の記述は割愛した。御覧忘されたい。

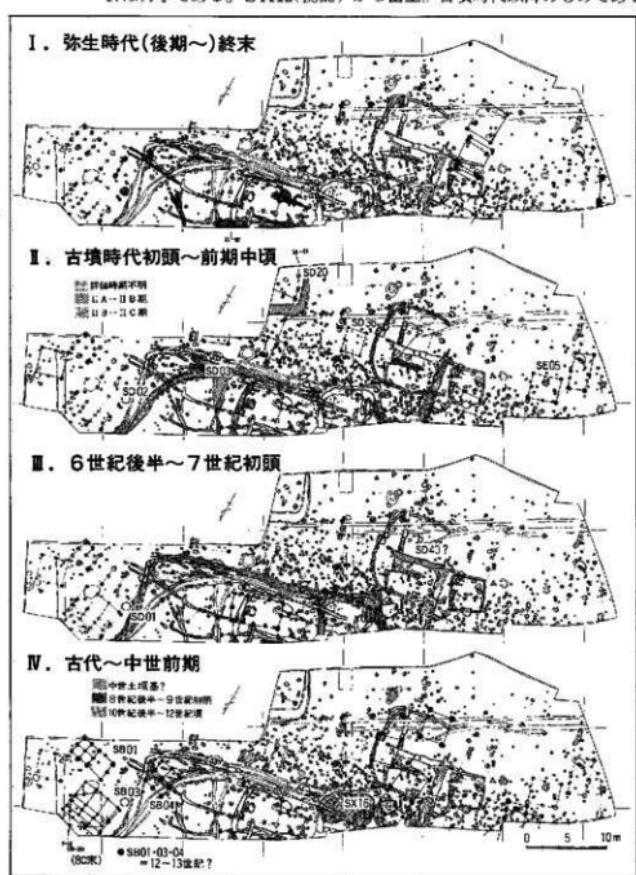


Fig.21 収集変遷図 (1/500)

PLATE 図 版



1. 調査区東半近景（西から）



2. 調査区東半全景（西から）



3. 調査区西半全景（東から）



4. SX16-17、SD01-X
～X区、SD02-X・X区
(東から)



5. SD01-02-I 区北側土層 (南から)



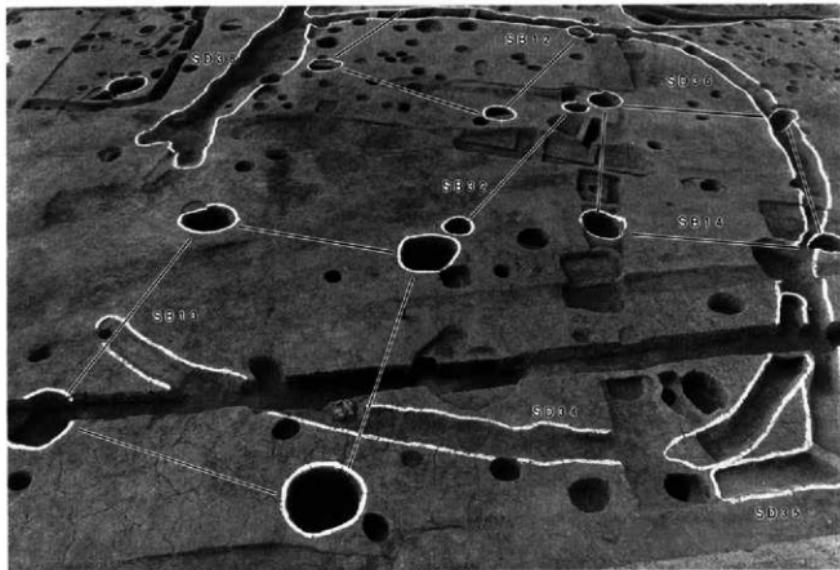
6. SD02-X 区西端土器出土状況 (東から)



7. SD20全景 (北から)



8. SD20コーナー部土器出土状況 (北から)



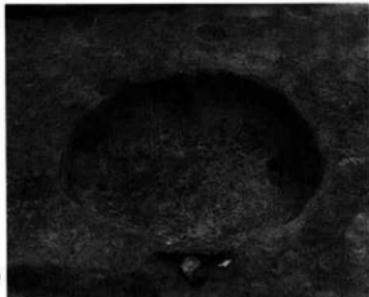
9. SD34・35・36・38、SB12・13・14・32(南から)



10. SD36-II・III区(手前がII区) 土器出土状況(西から)



11. SD36-III区土器出土状況(北から)



12. SK01完掘状況(北から)
※手前はSP287(SB09)



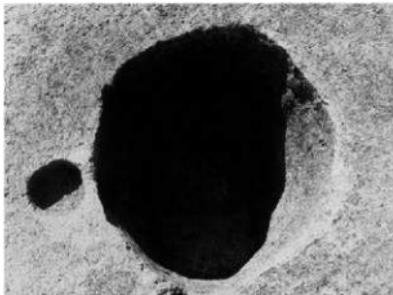
13. SC01全景（北から）



14. SK32(左)・SK31(右)（北から）



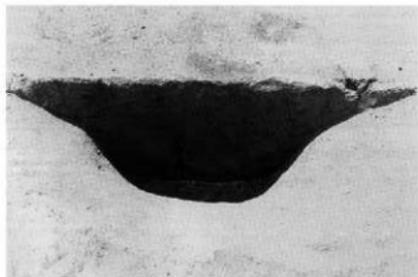
15. SE01土層状況（西から、左側がやや遅り足りない）



16. SE05完掘状況（東から）



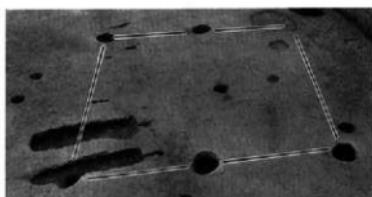
17. SE04土層状況（南から）



18. SE02土層状況（北から）



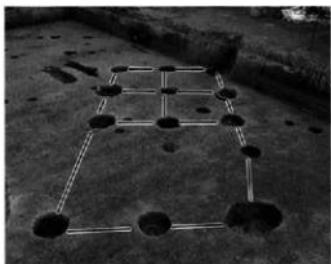
19. SB05全景（西から）



20. SB02全景（南から）



21. SB04全景（東から）



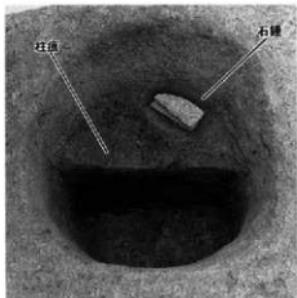
22. SB01全景（西から）



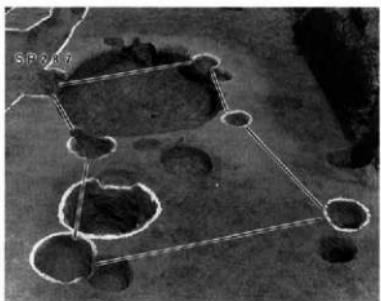
23. SB03全景（西から、右はSB01）



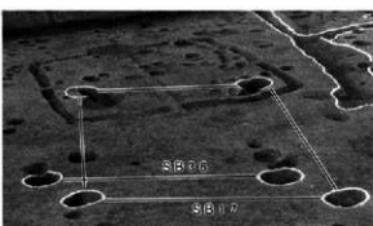
24. SB06全景（西から）



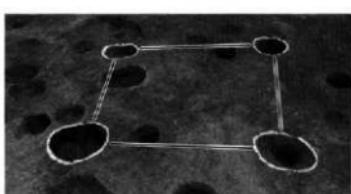
25. SP300 (SB06) 石塚出土状況（東から）



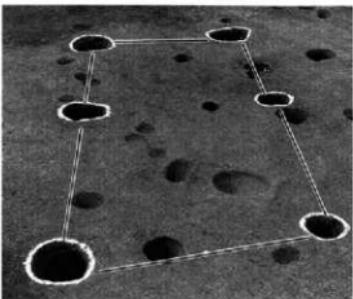
26. S B09全景(西から)



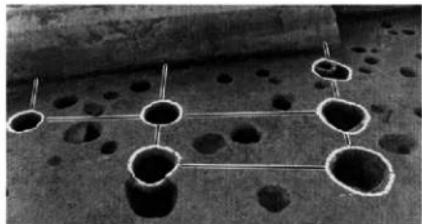
27. S B17、S B36? (南から)



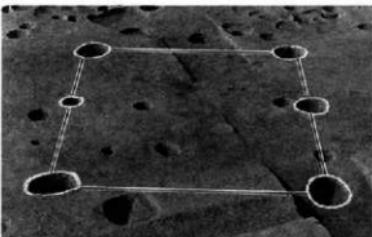
28. S B07全景(北西から)



29. S B10全景(南から)



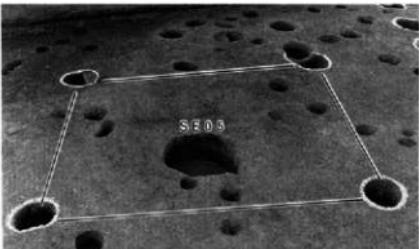
30. S B18(南から)



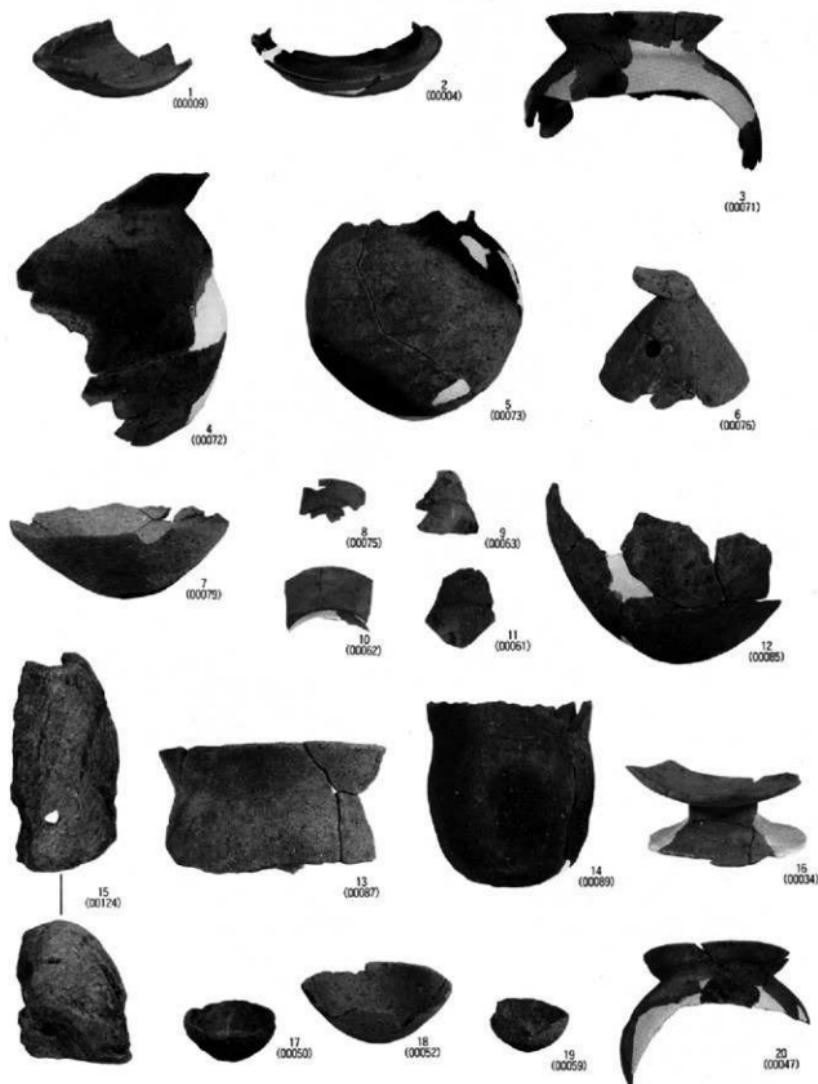
31. S B16全景(南から)



32. S B19(南西から)



33. S B11全景(南から、中央はS E05)



1. SD01-IX区 2. SD01-VIII区 3. SD36-III区 4-5. SD36-II区 6. SD35-II区
 7. SD38 8. SD34-III区 9. SD36-III区 10. SD36-IV·V区间 11. SD36-III区
 12~14. SD20 15. SP-300 16. SD03 17~19. SE05 20. SD02-XI区
 ()内は盤跡番号

席田青木遺跡 3

福岡市埋蔵文化財調査報告書第534集

平成9年（1997）3月31日

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8-1

印刷 福博綜合印刷株式会社

